

観光まちづくり学会誌

Journal of the Society of Tourism and Community Design

Vol.8

February, 2011

- 巻頭言 インフラ整備と観光まちづくり
 ―東北新幹線全線開業に寄せて―
長谷川 明
- シリーズ（8） 世界の都市
 中国上海の変貌
呂 杰
- シリーズ（1） ニューアーバニズムの予感
 都市の魅力～雑多～
中澤 昭典
- 論 文 中世を導く奥州最大の古代都市
 平泉の都市デザインに関する研究
 ―都市の発達モデルに関する基礎的研究―
安藤 昭
- 札幌市豊平区におけるごみステーションの景観評価
 について
安藤 昭・横枕秀和・久慈裕哉
- 発地型観光と着地型観光の構造比較に関する一考察
芥川 一則・渡邊彩ゆこ

観光まちづくり学会誌

目次 第8号 平成23年2月発行

巻頭言	02	インフラ整備と観光まちづくり —東北新幹線全線開業に寄せて— 長谷川 明
シリーズ(8)	03~08	世界の都市 中国上海の変貌 呂 杰
シリーズ(1)	09~10	ニューアーバニズムの予感 都市の魅力~雑多~ 中澤 昭典
論文	11~19	中世を導く奥州最大の古代都市 平泉の都市デザインに関する研究 —都市の発達モデルに関する基礎的研究— 安藤 昭
	20~27	札幌市豊平区におけるごみステーションの景観評価について 安藤 昭・横枕秀和・久慈裕哉
	28~35	発地型観光と着地型観光の構造比較に関する一考察 芥川 一則・渡邊彩ゆこ
お知らせ	36~41	活動報告：第9回 研究発表会 八戸大会発表要旨
	42	事務局だより：総会報告・学会誌第9号原稿募集 ：第10回 研究発表会 仙台大会開催
	43~47	投稿規定・執筆要項・投稿整理票
	48~53	学会会則・学会賞表彰規定
	54~55	役員名簿・委員会・事務局
	56	法人会員名簿
	57	観光まちづくり学会研究発表会開催校

■ 卷頭言

インフラ整備と観光まちづくり

— 東北新幹線全線開業に寄せて —

長谷川 明 Akira HASEGAWA
観光まちづくり学会副会長
八戸工業大学教授

昨年暮れ 2010 年 12 月 4 日、東北新幹線が新青森駅まで開通し、東北新幹線は全線開業となった。青森県にとっては、盛岡以北の基本計画決定から 38 年もの長い時間を経ての開業で、待ちに待った新幹線と受け止め、大きな期待が寄せられている。多くの県民が、2010 年のトップニュースにあげて喜んでいる。新幹線の建設に当たっては、多額の建設費の負担や開業後の採算性への不安から、財政的課題として受け止められてきた経緯があることを考えると、これまで関わった多くの人々の努力に敬意を表さずにはおられない。

しかし、この鉄道整備に時間を掛けすぎているだろうか？明治の東北本線の建設は、1882 年の建設着手から 10 年目の 1891 年に上野・青森間を開通させている。1889 年の東海道本線全線開通から実に 2 年後のことである。東北新幹線は、計画決定から 38 年、東海道新幹線開業の 1964 年からは 46 年が過ぎている。この時間の長さには、それぞれの時代の国策、北海道との物流、交通機関の多様化など、種々の理由があると思うが、人や物資を運ぶ交通であれば、基本的には地域間活動の大きさに依存すると思われる。

この大きさの重要な要素に人口がある。第 1 回国勢調査（1920 年）では、東北 6 県の人口は 579 万、東京都は 370 万で、東北は東京の 1.56 倍、全国の 10.3%であった。それが 2010 年の推計では、東北および東京の人口は逆転し、943 万人、1284 万人となって、東北の人口は東京の 0.73 倍、全国の 7.4%と、相対的に大きく減少している。しかも、平均人口増減率（2000-2005 の 5 年間）では、東北は 2.1%減、これに対し東京は 4.2%増である。さらに、東北の人口減少は加速している。地域の発展や日本の将来を考えると、このような方向性の東北で良いとは誰もが思わないのではないだろうか？

明治時代のように鎖国によって大きく欧米諸国から遅れていた鉄道などの社会基盤整備を急激に進めなければならなかった時代と、いまのように質の高いそれが求められている時代では、そのあり方、進め方は異なるものでなければならない。東北新幹線が開通して、移動が容易になったことは確かだが、このことによって、さらに東北の人口減少が進むのではなく、東北の人口減少が食い止められるまちづくりが必要とされている。たとえば、公共事業の評価指標に費用対効果 B/C がある。人口が少ない地域でのインフラ整備では、B が小さく評価されるケースが多く、公共事業は少なくなる。この評価のみでは、人口の少ない地域への投資を減少させ、人口の多い地域へ投資する公共事業が進められる。自ずから、人口減少地域はますます減少し、人口増加地域へ投資が集中されていく。

人口減少地域は魅力が少ないのだろうか？毎回学会開催時に行われるエクスカッションでは、多くの魅力ある素材に触れることができた。また、過密化された社会に対し、人口密度の少ないことが豊かな暮らしと結びつき、魅力となる考え方もある。それら東北の魅力を受け止めるために出かけて来る東北新幹線でありたい。観光とともにまちづくりを考える観光まちづくり学会も、そのような魅力づくりに貢献しなければならない。

中国上海の変貌

呂杰 (るい じえ) Lu JIE
 観光まちづくり学会 特別顧問
 上海友普経貿発展有限公司

前書き

この度、観光まちづくり学会誌第8巻へ原稿を執筆することを、安藤先生と約束しましたが元中国人留学生である小生として、とても幸いと思いつつも非常に緊張しております。

私は、3年間で修士課程を修了、東京で7年間商社マンを経験し、2002年帰国、上海で創業して日中間貿易業務を専門に商社を経営しています。

自分の目で見た上海を、どこまで正確に皆様に紹介することができるのか正直自信がありません、また本当に変化の激しい中国のことなので、どうやったら皆さまに理解して戴けるか心配です。取りあえず、頑張るしかないと覚悟して精一杯努力しましたので、どうぞ不備な所がありましたらご指摘をお願いします。

概略

上海は、中国最大の都市であり、四つの直轄市の一つでもあります。(他は、北京市、天津市、重慶市となる) 中国大陸の華東地区に、長江の海に流れ込む河口に位置し、非常に重要な位置にもなっている。中国では、上海を国際的経済、金融、貿易の中心及び現代的国際都市に築き上げる方針が着々と進められています。

20世紀90年代から、揚子江の東岸の浦東新区の開発が急ピッチで進められ、二十年の努力によって、旧租界代表的旧上海と比べ、巨大な国際都市に成長して、新しい上海が世界にアピールされています。

上海の歴史

- ・古代 戦国時代：春申君の封地(今も申と略称)。
- 唐代：華亭県の一部、蘇州河の南に「上海浦」という村
- 宋代：上海鎮とよばれる
- ・近代 1292年：上海県となった、江蘇省属
- 1842年：アヘン戦争終結、南京条約によって、条約港として開港
イギリス、フランスなどの租界形成。
- 1865年：香港上海銀行が設立、欧米の金融機関上海進出
- 1871年：香港と上海を結ぶ海底通信ケーブル開通、日本の長崎にも延伸。
- 1920年～1930年：極東最大の都市として発展、イギリス系金融機関の香港上海銀行を中心にアジア金融の中心となった。上海は魔都或いは東洋のパリとも呼ばれ、ナイトクラブ・ショービジネスが繁栄した。
- 1930年：上海直轄市が成立。
- 1932年：上海事変が起こり、日本軍機の爆撃を受けた
- 1937年：日中戦争で日本軍に占領された。
- 1949年：中華人民共和国成立。

シリーズ 世界の都市（8）

上海の概略

上海の気候

北亜熱帯季節風気候、四季は明瞭で、日照は充実、雨もよく降る。暖かくて湿っぽい。春や秋は比較的短く、冬や夏は比較的長い。平均気温は18.1℃、日照時間は約2000時間、降雨量が1200ミリであり、うち約50%は、5～9月に集中していて、増水期は春雨、梅雨、秋雨の三つの雨期がある。

上海の人口

2011年現在の人口は約2300万人に達し、この内上海市戸籍を持つ住民が1200万人（800万余り人が都心部に）、他には、非居住の暫住証を持つ中国人と香港、マカオ、台湾他の外国人。それ以外の出稼ぎ労働者が600万人以上。人口は毎年増加の一方で、上海出生率が、全国で唯一マイナス成長の都市となっており、そして高齢化が進んでいて、日本と同じように高齢化と少子化の問題は、上海市の政府にとって厳しい現実的な課題になってきています。

上海の産業

産業的な観点では、中国の重要な総合的工業基地、全国の経済発展の中で、決定的に重要な役割を果たしている。主要な産業としては、世界的規模の製鉄、造船、航空、電力設備製造、石油プラント、半導体、紡績などの業種があり、そして近年、商業、金融業、海運業も発達しています。特に近い将来、アジアの金融センターになることが上海の主たる目標となります。

上海は、長江エリアにおいて、産業中心な役割となり、江蘇省、浙江省、安徽省などの輸出入の窓口であります。

上海の鉄道

上海発北京行き高速鉄道は2008年より着工し、中国最長距離(1318キロ)の最高速度(380キロ)と言われる高速鉄道は五年の工期を経て2013年に完成の見込みです。その時には、中国の政治中心と経済中心との二つ最大都市が5時間で結びつくことになります。

他に、世界初の実用リニアモーター(時速431キロ)が走っています。近い将来実用化向け検討もされているそうです。

上海の空港

新空港の浦東国際空港と市内に旧空港の虹橋国際空港の二つの空港を持つ上海は、既に年間8000万人の利用客までに達し、さらに虹橋国際空港の拡大工事は2015年には完成予定となります。その時、年間両空港の利用客数は、1億人に達成します。

上海の地下鉄

上海は、前世紀前半のアジアにおいて、すでに発達した大都市になりましたが、地下鉄は、一本も有りませんでした。第一本目の地下鉄の開通は、1993年の春でした。これは、日本の最初の銀座線より、65年間ほど遅れていました。ただし、今日は、上海の地下鉄の保有線路は10本までに、運営距離は330キロに公里に伸びました（リニアモーター含まず）。また、2020年までに、地下鉄の保有線路を22本とするという計画があります。

上海の港

中国は、既に世界貿易大国となっており、かつての中国の世界に繋がる港という上海港は、欠くことのできない存在に成っています。昨年末統計によって、上海港の貨物取扱量は5億9千万トンに達し、三年連続世界一でした。

上海の人材

上海は、全国内の優秀な人材や、海外帰国者(留学生、華僑など)も一番集まるところとなりつつあります。上海は現在大学数が全国二位となり、全国の大卒生、若者たちの就職選択のトップの場所となっています。または、帰国した留学生が優先して選ぶ仕事場所となっています。外資系を含む企業は、様々なレベルの高い「人材」を求めています。

そこで、欧米系、日系、入り乱れての「人材」争奪戦が繰り広げられていますが、高い厚遇で迎えようとしても、なかなか求める人材が来てくれないという売り手市場の状況が慢性的に続いています。

上海万博及び上海ディズニーランド

昨年春に開催された上海万博は、大阪万博と愛知万博の合計投資額を数倍超える規模となりました。日本観光客を含む7000万人の世界各国の観光客が来て上海万博を楽しみました。

または、世界最大規模のディズニーランドは、上海での建設がもう始まっており、三年後完成の予定です。その時には、日本のお客様(例えば九州など)は飛行機で1時間程度で便利に上海へ来ることができますので、ディズニーランドで楽しめるようになるでしょう。

上海の食

上海料理とは、中華料理の代表的なものの一つです。その源流は、隣の江蘇省、浙江省一帯の寧波や揚州の料理であり、「魚米之郷」と称され、魚介類と農産物が豊富であるため、酒、醤油、黒酢などを調味料と使用して、もともと日本料理に近く、日本人の口に合うことで知られています。

昔と比べ、街に様々な国の料理が有り、日本人経営している日本料理店も沢山があります。有名なデパートの食材売り場で、納豆、蕎麦、和菓子も売られています。

上海の街

旧租界、中国第一街の南京路商店街及び淮海路、新天地周辺などに有名なデパート、ブランド品専門売店は、沢山ありますが、中国市場は、既に日本の代わりに、欧米高級ブランド品の第一消費市場となっています。中国に進出している日系企業と違い、日系デパートの上海出店は、非常に慎重となり、数年前、ジャスコの出店が続かなく閉めており、また伊勢丹の二軒の店舗の一つがもう閉鎖されました。ユニクロは、昨年南京路に大きい店舗をオープンして、大変人気を集めています。だが、日本のファッションデザイン、化粧品など、アニメなど、街の欠けない存在となっています。

上海の住まい

近年の中国は、不動産高騰し、バブルとなっていますが、その中でも上海が一番目立っています。中心エリアでは、平米高価が300万円のマンションが出てきていますし、豪邸、別荘等、億単位(十数億円)でも上海の郊外では買われています。東京都内みたいに、中心街のマンションに住める人は、ほとんど外国人や高収入のサラリマンであり、元の住民は、離れる郊外に住むようになっていきます(家を貸し出しているため)。

上海人、歴史的観点に純粋な上海人は存在しないと言われていますが、19世紀頃に近辺の江蘇省、浙江省及び地方から来た人々は上海で仕事して暮らすようになって上海人になりました。

中国の最初、欧米人、日本人など外国人と接触し、ビジネスを始めたのは、上海人であります。ですから、中国の中でも、上海人は、頭が賢く、商売が上手と言われました。また性格的に優しく、狡くとの評判もあります。冗談の格言があり、嫁にするなら、上海の男にします。

家事まですべてみて頂けるなど知られています。これは本気に近いと思います。不思議と、上海の男を褒めるとき、貴方は、上海人らしくないと言います。女の子にしては、綺麗で頭が良すぎるとよく外国の方に言われました。ただし、今日は、上海に全国優秀な若者たちが集まって来ていますので大分異なっています。

個人の見解

小生は、1993年に上海より、日本に留学しましたが、上海のホテルで先生の受け入れ面接の際の先生の質問は、「私費留学で大変ですよー、学業を終了して帰国した時、14”テレビ(当時ホテル部屋に置かれたTV)一台も買えないかもしれないー」でした。

シリーズ 世界の都市（8）

今は、上海の家電売り場は、ほぼ日本と変わらない、大型な薄型の液晶テレビが沢山置いてあり他の家電製品もいっぱい展示されています。テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機の製造販売量は、既に全世界のNo.1となりまして、外国に行って帰国に家電製品を買って帰ることは必要なくなりましたねー。車も、この数年間中国の製造、販売量は、世界の二位となりました。

上海は、経済の自由化により、急速に開発が進み、歴史の色濃い街から摩天楼の世界へと、おぼろなスモッグの中で変貌しつつある、新しさと昔がごちゃ混ぜ状態になっている。寺院や庭園などの中国風のもの、建築物などの西洋風のもので渾然一体となり、不思議な雰囲気を出している。

昔に、上海人と田舎人、地方人などと、差別な分けられることがありましたが、今は、この見分け方が、完全に変わりました。沢山、全国から集まってきたサラリーマン、OLさんなど、数多い外国人とともにここで働いています。昔は、指定されたマンションしか外国人は扱うことができなかったが、今日は、色々な国の方が、自由に住まいを選べるし、外国人幼稚園、学校も珍しくなく、普通に暮らしています。

安全の面においては、上海は、非常に社会的に安全、安定しており、犯罪率が低く、夜中に女の子は、安心して歩けることまたは、混み合っている電車中、痴漢など犯罪は殆どありません。

上海は、一番多民族、多国籍の人々が生活している大都会となっています。

上海での仕事は、様々なチャンスを与えられ、頑張って人生または家族の幸せのため、様々な夢を叶えるため、人々の生意気は、もっとも感じられています。ただ、ここの生活のスピードは、プレッシャーの点において間違いなく中国で一番となっています。

若者たちは、より良き仕事に務めたい、より高き収入を得たい、より幸せになりたいと思いますが、競争が激しい環境の中で、生活コストの高さ、仕事の厳しさ、将来の不安定さなどに耐えながら、妥協な道を選んで、地方実家に戻ることにしました。若い娘さんたちは、付き合い彼氏と結婚する前提は、マイホームがあるかどうか、好収入があるでしょうかと判断します。ただし、普通のサラリーマンは、マイホームを買うのは無理だろう。

両親の支援を頂くのはほとんど無理です。または、お金稼ぎを狙ってなんでもいいと収入が高くなれば仕事頻繁に変わったり、リスクを無視して個人起業する人が少なくありません。

ちなみに、いずれバブルが破たんしたらどうなりましょうかと大変心配しています。

または、東京都と同じような問題も、沢山あります。離婚率が高く、少子化並び高齢化が進み、交通渋滞、物価が高く、就職が難しく、社会医療保険、高層ビルの防災(統計によると、上海の高層ビル棟数は、日本の全国の合計棟数より多い)など問題の不備があり、色々な改善の努力をしていますが、まだまだ期待したいと思います。

まとめ

最後に、世界的に金融危機、経済不況の逆風に、中国は高度成長の道に歩んでいますが、特に、上海は、経済中心として色々な経済、行政、福祉、税収等の改革をリードしていることは、間違いなく、上海でも全国と同じく、より貧富の差が激しく収入の極端な差が、色々な社会問題を起こしており、生活レベルの上昇とともに実際に幸福感の降下の矛盾も明らかにされています。如何にこのような問題をスムーズに解決するかが、これからの大きな課題です。

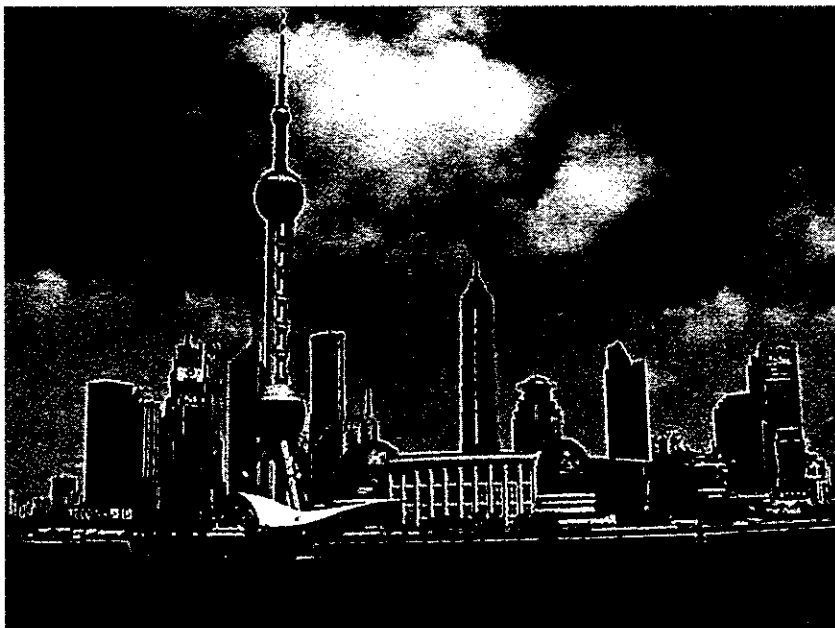
中国人は、また、上海に住んでいる市民たちは、将来に対しての見方は、基本的に明るくて数年前の日本の唄「明日がある」のように頑張れば、幸せになると信じています。ここでは、貧富を問わずに、今日より明日がよくなるとの態度で、色々な問題を抱きながら、近年の上海ブームを支えているということでしょう。

上海の変貌は、毎日書き換えなければいけません、何時かきっかけがあれば、皆さん是非一度上海に来て頂ければと思っています。

[添付写真]



・浦東新区1



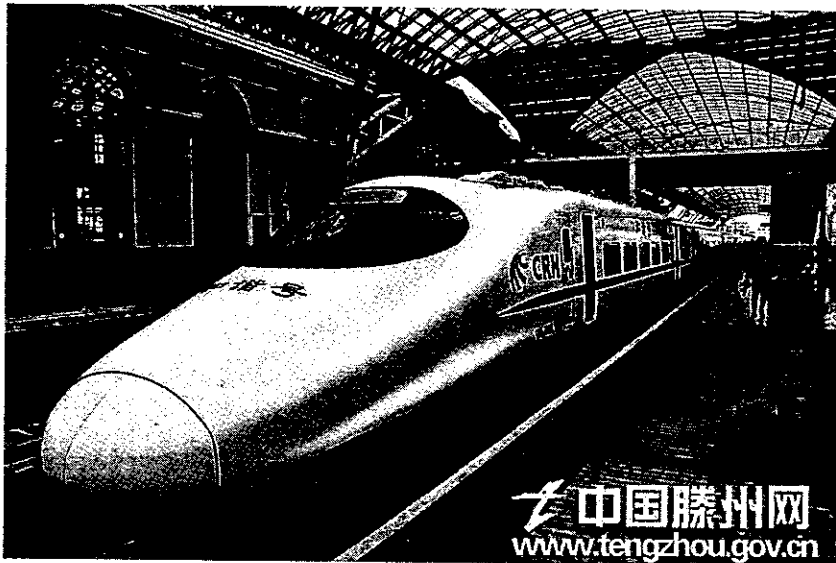
・浦東新区2



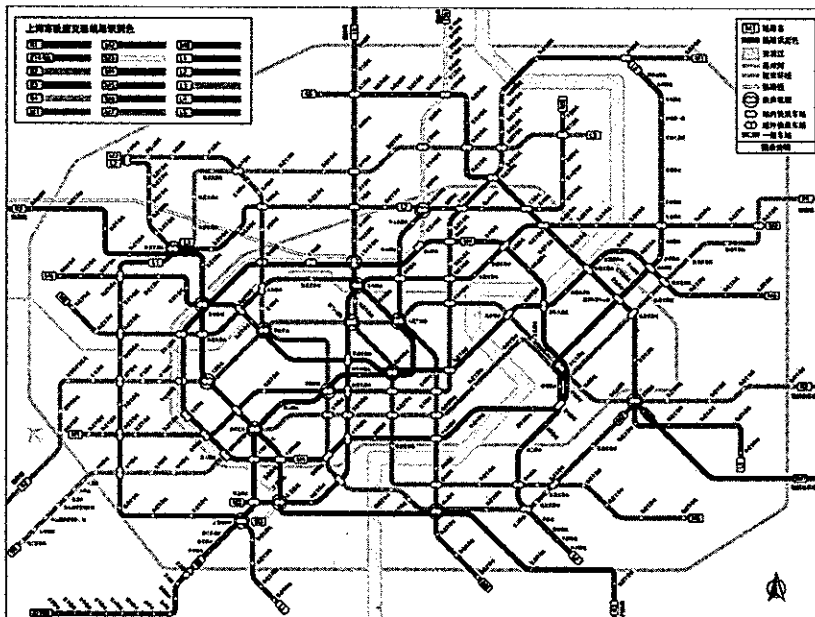
・浦東新区3



・上海バンド



・高速電車(時速380キロ)



・地下鉄マップ

都市の魅力～雑多～

中澤 昭典 Akinori NAKAZAWA

観光まちづくり学会 会員

都市デザイン総合研究センター理事

都市の魅力とは何だろうか？

私は、喩えて言えば「ヴィレッジヴァンガード」のようなものだと思う。ヴィレッジヴァンガードとは何かと言えば、今や全国どこにでもあるが、盛岡ではイオンモールの中にある、自称本屋、実態は雑貨屋である。

そこにはいろんな小物や書籍がひしめいて雑多な世界がある。小さな店内に入ると迷路に迷い込んだように方向感覚を失い、入り組んだ狭い空間は濃密に詰まった何かで、その物理的サイズ以上に奥行きを感じさせる。店の中の通路は全てカーブしたり不規則に交差したりしていて、1 m 先にも何が出てくるかわからず、「棚の向こうには何があるのだろうか」という小さな不安とわくわくする期待感を抱かせる。雑然と並んでいるように見える棚には、楽しそうで、便利そうで、猥雑で、怪しげな雑貨に混じって、個性的で硬派な本も積み上げられている。客は混雑する迷路の中で「すみません、ちょっと通してください」と声をかけないと通れない。今風の若者たちが狭い通路で肩がぶつかりそうになりながらもながらも、結構互いに気を配り、溜まりながらうろろしている。私はここに、都市の一つの理想の縮図を見出す。

さて、人々が都市の繁華街に出掛けるのはなぜなのか？ 買い物だけではないし、映画を観に行くだけではないし、あの店に行くのでもない。多くの人々は“街に出掛けること”自体を目的に街に集まる。そこには“人混み”と“多様性”が存在するからだ。この、人混みと多様性、すなわち“雑多”こそが都市の魅力の重要な要素なのだとは私は考える。人々は人混みに入ることにより、レッテルを外した匿名性を獲得できる。学校の成績や家柄や経歴や名前さえも脱ぎ捨てられるのだ。社会学者の宮台真司は建築家隈研吾との対談の中でこれを、「顔を持たない名前を欠いた存在」と述べている。つまり近所の目も無く、学校や会社からも解放され、一時的に人生にリセットをかけることが出来る。そこでは仲間と溜まり、或いは孤独を楽しんだり、まったくとした寛いだ時間と空間が存在する。



写真-1 神田古本屋街の休日風景

少し前まで、老人ホームや大学は、郊外の緑豊かな空気のきれいな環境の良い所にこぞって立地したり移転したものだ。しかしきれいな環境に移った結果、老人はすぐにボケ始め、学生達は、郊外のきれいすぎるキャンパスには「溜まり場がない」と嘆いた。溜まり場がないところにはコミュニケーションが発生しにくく、学生からは覇気が失われた。その結果、この2つは最近はまだ街中に戻り始めた。

宮台真司は、繁華街には「匿名的なコミュニケーションを生きるための都市的なコミュニケーションチャンスがある」とも述べている。匿名性とコミュニケーションチャンスがある「溜まり場」はまったくとした寛げる「居場所」となる。それを存在させ得る雑然としてニュートラルな空間としての繁華街。それは例えば、下北沢であり、原宿であり、盛岡でいえば桜山界限であるが、それらは現在の状況を意図して計画的に造られたものではなく、自然発生的に出来上がった空間である。

今、新しく造られている街や街路は、きれい、安全、安心などに目が向けられ、そういう雑多でやや怪しげな匿名性というものを排除しようとしているように感じられる。

私は、都市の持つ雑多やそこから生まれる匿名性が、人々の精神的バランスをとる装置として、或いは現代のコミュニケーション装置として、その果たす役割について分析と評価を行う必要があると考えている。そして、亜流として排除されがちなこれらの中に、都市を再生させ、社会の閉塞感を抜け出す『本音』の手がかりが隠されているような気がする。

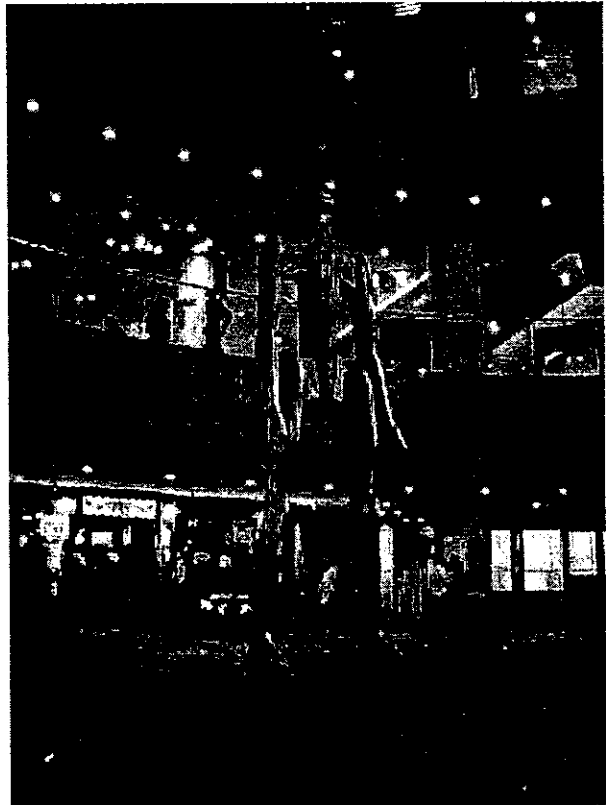


写真-2 東京オペラシティ

中世を導く奥州最大の古代都市 平泉の都市デザインに関する研究 —都市の発達モデルに関する基礎的研究—

安藤 昭

正会員 北海商科大学教授 商学部観光産業学科 (〒062-8607 札幌市豊平区豊平6-6-10)

E-mail ando@hokkai-u.ac.jp

本研究は、誕生してから滅亡するまで百年余りという歴史を有する、古代末期の奥州最大の都市・平泉を取り上げ、都市の「発達モデル」を人間の脳機能の進化のアナロジーから仮説立て、ひとつの都市の発達段階を構造デザイン史的に検証しようとしたものである。その結果、都市平泉は、螺旋階段的に推移する4つのテーマ、つまり(1)生物的環境(原都市)、(2)インフラ機能空間(清衡期)、(3)文化現象としての景観(基衡期)、(4)心理現象としての景観(秀衡期)によって、重層的、時系列的にデザインされ発達してきたことが検証できた。これらの研究を通して、都市の発達モデルは筆者等の既発表論文である「都市の胎生的進化モデル」³⁾の縮尺モデルであるということが明らかになった。本研究によって、ひとつの都市を構造デザイン的にデザインするための新たな手掛かりを得た。

Key Words: City of ancient where the Middle Ages is led, History of city design, Developmental model of the city

1. はじめに

我々が都市デザイン史を学ぶ目的は、今日の都市デザインの由来を知り、現代における都市デザインを理解し、将来の都市デザインのあり方について考える力を養うことにある。筆者ほかは、これまで都市の胎生的進化モデル(1984年¹⁾、1998年²⁾、2000年³⁾)に基づき、世界史の根底に横たわり螺旋階段的に推移する必然的な時代のテーマとして生物的環境(原都市)、インフラ機能空間の構築(古代の都市)、文化現象としての景観(中世の都市)、心理現象としての景観(近代の都市)の四つのテーマの存在を検証してきた。そして、都市はこれらの四つのテーマを基に重層的にデザインされ、再体制化(再構築)されるので、これらのものが時代の変遷とともに若干色彩を異にしながら都市デザイン上に現れるとしている。

さて、古代末期に誕生し、人口5万から10万を有し、わが国の京都や鎌倉に匹敵したといわれる奥州最大の古代都市平泉はこれまで注目されることが少なかったが、近年の急速な経済のグローバル化と都市化により個性的な文化遺産が危機に瀕するにつれて、周囲の自然景観と渾然一体となった文化的景観の価値が認識されるようになった。岩手県では2011年7月のユネスコ世界遺産委員会での登録を目標に、2008年8月にはユネスコ世界遺産委員会へ推薦書を再度提出するとともに、文化景観の保存と活用のための事業に積極的に取り組んでいる。

ところで、これまで古代末期から中世の移行期の都市平泉については藤島亥次郎⁴⁾(1964年)による金色堂、毛越寺、無料光院に関する建築史的研究、斉藤利夫⁵⁾(1992年)による都市史的研究、前川佳代⁶⁾(2001年)、入間田宣夫、本澤慎輔⁷⁾(2002年)による考古学的研究がある。しかし、誕生してから滅亡するまで百年あまりの歴史を有する古代末期の奥州最大の都市平泉の発達をトータルで捉える場合には、これらの時間軸による認識の仕方の他に空間軸による認識の仕方の観点から、もう少し意識的に捉える必要があると思われる。なぜなら、時空間的に都市の実態を把握することによってこそ、都市の発達において、如何なる断絶と持続がみられるのか、そして如何なる再体制化がなされるのかを見極めることができるようになるからである。

本論文は、中世を導く奥州最大の古代都市平泉を取りあげ、既述の都市の胎生的進化モデル³⁾を下敷きに、「都市の発達モデル」を仮説立て、ひとつの都市の発達段階を構造デザイン史的に検証しようとするものである。

近年、我々は多くの危機に直面している。地球生態系保全の危機、社会規範の崩壊の危機、社会組織の溶解の危機、そして、個人の空洞化等の現象をもたらす高度情報化社会の危機がこれである。これらの危機を回避し持続可能な都市デザインを推進するためには、今こそ、中世を導いた都市平泉について研究することが極めて重要であると思われる。従来から歴史が反省の鑑とされてきた事実を踏まえて、現代の都市デザインは如何にあるべ

きか、さらには将来の日本の都市の姿は如何にあるべきかを考える際の一助となればと考えている。

2. 対象都市の変遷

齊藤利男⁵⁾ (1992年)による都市史的研究や入間田宣夫、本澤慎輔⁷⁾等(2002年)による考古学的研究の成果を基に、これまで明らかになった古代から中世の都市平泉の拠点施設の造営、道路、街路の整備の状況を清衡期(1101年から1128年)、基衡期(1129年から1157年)、秀衡期(1158年から1189年)3代の時期区分で示せば以下ようになる。

(1) 清衡期 (1101年から1128年)の都市造営

初代清衡の平泉入府とともに奥州中央の地である関山丘陵上に中尊寺伽藍(多宝寺・釈迦堂・大長寿院からなる多宝寺伽藍と金色堂等寺塔40余り、寺坊300余り)を建立した。金色堂の正方(正面)に政庁平泉館(後の柳之御所)を造営。花館(廃)寺の建立。猫間が淵の整備。そして平泉館～関山中尊寺への道(幅員:約10m)を整備した時期である。つまり、それまで北の国家的境界であった関山丘陵(衣川の関右岸の丘陵)を南下した平泉の地に、清衡によって政庁平泉館が建設され、平泉を奥州の中央の地とする奥州新体制が確立し、中尊寺伽藍の建立が進展した時期である(図-1参照)。

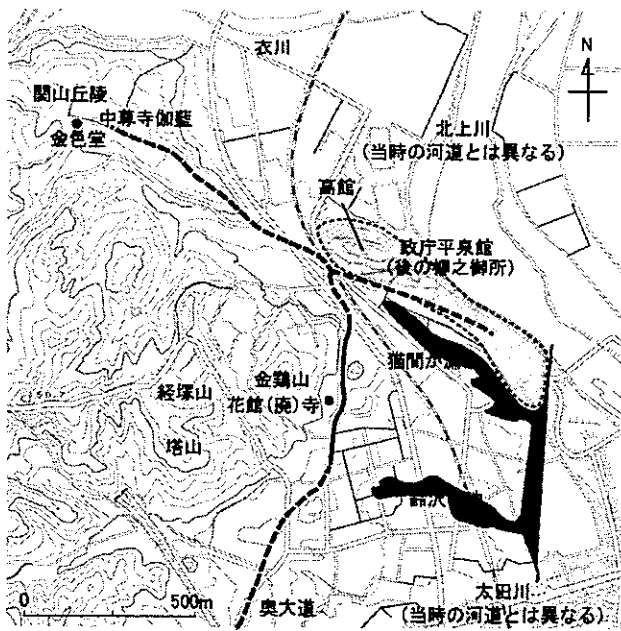


図-1 清衡期の平泉

(2) 基衡期 (1129年から1157年)の都市造営

塔山の南側山麓に毛越寺伽藍(堂塔40余り、寺坊500余りあって、中尊寺よりさらに大規模であった)を建立し、近隣地域が整備された。毛越寺建立のための寺域設定に伴って奥大道の幅員の拡幅及びルートの変更がなされ、毛越寺南面の東西直線街路[都市平泉の大通り(シ

ンボルロード)]が整備された。そして、部分的には、整然とした方形基調の街区(400尺×400尺≒121m×121m)が整備された。また、この時期の後半には、毛越寺南面の東西直線街路(シンボルロード)と市街地の東側に位置する南北の道を整備し連結することによって、清衡期に整備された平泉館が毛越寺と直結することとなった。この街路の設置によって平泉拠点地区全体が市街地として意識されるようになった。また、この時期に平泉の鎮守諸社と中央総社白山社が設置された。つまり、この基衡期には平泉の南西部・表玄関口に毛越寺伽藍を建立し、毛越寺南面の東西直線街路(シンボルロード)を整備することによって、平泉の都市軸を確定するとともに、平泉の都市域を決定づけるなど、平泉のまちづくりが盛んに行われた時期である(図-2参照)。

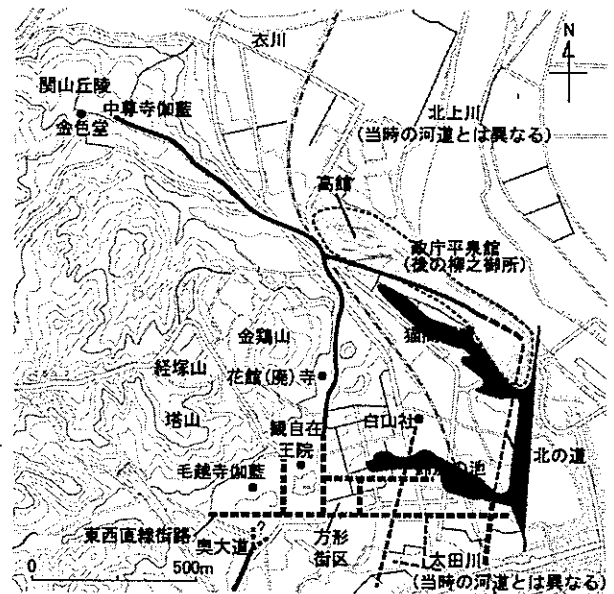


図-2 基衡期の平泉

(3) 秀衡期 (1158年から1189年)の都市造営

柳之御所内部地区における平泉館の寝殿造風の建物への大改造。柳の御所内部地区の街路網の整備、及び苑池の造成。無量光院の建立。そして、伽羅之御所の造営(現在のところ正確な場所は未確定である)がなされた。つまり、秀衡期には無量光院が建立され、これと背後の金鶏山と無量光院そして前景の苑池からなる東西軸を基軸に都市・平泉の中心基軸を確定した。いわゆる、秀衡期は古代の都市平泉を仏教思想で成熟させた時期である。(図-3参照)。

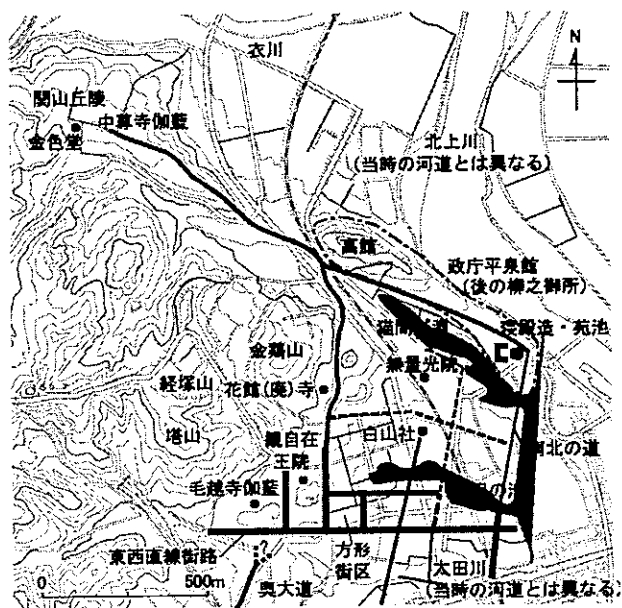


図-3 秀衡期の平泉

3. 「都市の発達モデル」の仮説と検証

歴史の中で、ある地域社会と空間及び自然との間に作り上げられてきたひとつの安定的な関係、つまり風土（自然・歴史・文化）の観点から都市デザインの歴史的な性格について考察するために、ここでは、都市をひとつの有機体とみなし、その誕生より死にいたるまで発達しつつけていく自己充実的存在としてとらえ、都市の胎生的進化モデル¹⁾²⁾³⁾に基づけば、その発達段階を説明できるとして図-4^{註1)}を作成した。

なお、図-4において、縦軸は人間集団（コミュニティ・プライバシー）を、横軸は都市の視覚的環境（空間—景観）を示す。また、縦軸のコミュニティは、社会性、公共性を、プライバシーは隠遁、人目に付かないことや個人を重要視する視点を意味しており、横軸の景観は、意味が沈澱した世界としての都市空間を構成するさまざまな要素の眺めを、空間は、都市の機能性、実用性、身体性、生物共存性、そして、生態系ネットワーク等にかかわる空間を重要視する視点を意味している。

図-4において、第3象限の生物的環境は、原都市における環境、つまり都市の結晶化以前の環境を象徴的に表現する空間である。この空間は風土認識の枠組みとなっており、緑、水等の自然からなり、自然に対する畏敬の念または生物的環境のもっている安らぎ感にかかわるランドスケープ要件を象徴的に表現する空間である。第2象限のインフラ機能空間は、原都市の最初の都市的変容を示し、古代末期の奥州・平泉、藤原清衡期約30年間の社会生活にかかわる機能的条件を表現する空間である。つまり、衣川以北の奥六郡（胆沢・江刺・和賀・稗貫・志波・岩手の六郡：俘囚の地）の王（六郡郡司）に代わって、中尊寺伽藍（諸仏・菩薩の中心である阿彌陀如来像を安置）という政治・軍事を象徴する新たな宗教装置建立のもとに平泉の地に造営された新都市のインフ

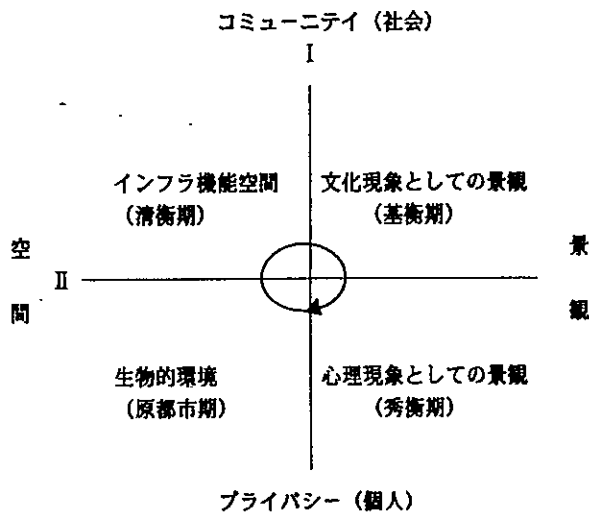


図-4 都市の発達モデル

ラ機能空間のそれである。

第1象限の文化現象としての景観は、社会的活動の産物である市民に共通の文化的表象を形成する景観である。つまり、中尊寺を越える規模を有する毛越寺伽藍（薬師如来像を安置）が象徴する現世利益的宗教装置によって支えられた、藤原基衡期約30年間の都市平泉の商工業の萌芽を表象する景観であり、古代から中世の橋渡しの時期における習慣、風俗、生活様式をも表現する景観である。そして、第4象限の心理現象としての景観は、地域地区に、より多様で個人的な楽しさや喜び、癒し、安らぎ感、心の安寧、美しさのような心的経験をもちやすくなる景観であり、したがって、日常の体験に個人的奥行きを与える景観である。3代秀衡の持仏堂・無量光院他の建立技法に代表される、藤原秀衡期約30年間の都市デザインを象徴的に表現する景観であるといえる。以下に、これら4象限の空間・景観について詳述する。

(1) 生物的環境について

フランスやドイツのように地形の平坦なところと違って、わが国のように地形に起伏があり山岳や丘陵、河原、盆地、谷地形、湿地、河川、溪谷、滝、淵や沢、湧水、池等が多い所においては、周囲の田圃里山をも包含したランドスケープ（風景：目でとらえた土地の形状）のもつ意味は大きく、自然は単なる「地」または「背景」としての役割に留まらず、ときには「図」としての役割もはたす⁸⁾。中でも、ランドスケープがひとつの思想として意味的構成 (meaning structure) をなしている場合においては「図」としての役割がいっそう大きくなる。ランドスケープのこの「図」としての役割を語ることはなしに、古代の都市平泉の都市デザインを語ることはできない。つまり、関山、塔山や金鶏山、衣川、北上川や太田川、猫間が淵、鈴沢の池、湿地帯そして数多くの苑池⁶⁾や遣水を語らずに、平泉の都市デザインは語れない。

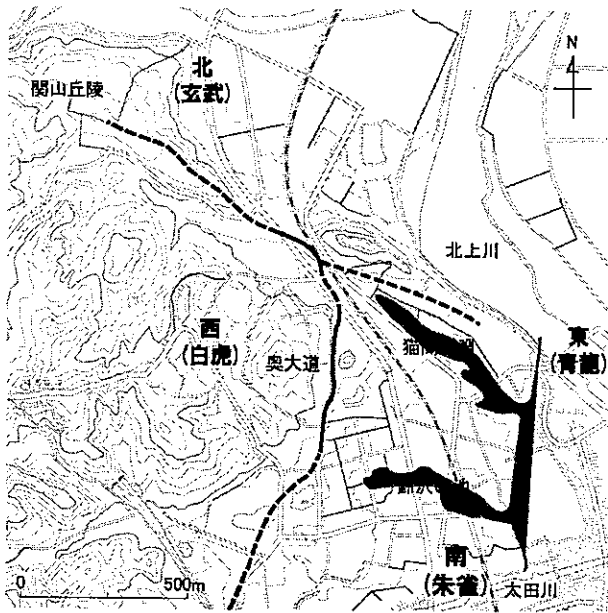
以下に、文献および現地踏査を基に抽出することので

きた、都市・平泉のランドスケープとそれを規定しているランドスケープの構成要素、さらにはランドスケープの都市デザイン上の意味と役割について述べる。

都城や宅地等の占地の理論に、風水思想に基づく「四神相応の地」がある。わが国の古代の都市・平安京はこの地相を有する⁹⁾とされている。西日本の東西に横断する山脈群と東日本の南北に縦断する山脈群において、その向きに90度余りの違いがあるのはともかく(従って、東日本においては北に山ありて玄武とはなりにくい)、古代の都市・平泉は風水思想に基づく「四神相応の地」として占地された¹⁰⁾。

「四神相応」とは「東に流れありて青龍、南に沢畔ありて朱雀、西に道ありて白虎、北に山ありて玄武と称し、これが四神にかなう」という。実際、平泉の地形は東に北上川があり青龍、南に低湿地があり朱雀、西には平泉の幹線街路奥大道があり白虎、そして北には関山丘陵があつて玄武となり得た。これらの四神が相応する地を「蔵風得水の地」として都市平泉の理想の地相としたわけである(図—5参照)。

当時のニュータウン平泉の目標(Landmark)となる関山、塔山、金鶏山や都市・平泉という場所の領域性(District)、奥大道(Path)や北上川(Path, Edge)、低湿地(district)等、都市の骨格となる要素¹⁰⁾及びその他の多くの自然的要素が、都市平泉のStructure designまたはDistrict designとなっていることがわかる。



図—5 平泉の地相(四神相応)

(2) インフラ機能空間について

既述の関山丘陵は比高80mの山ではあるが、その北側に位置する幅員約100mの河川である「衣川」へ急角度で傾斜し、天然の要害をなしていたので、10世紀後半においても、「日本国」と「俘囚の地」との国家的境界になっていた。往時の「奥大道」は「衣川」を渡りこの関山北側の急な坂を登り、この地に中央政府によって設

けられた「衣川関」を経て、現在の中尊寺金色堂のところに於て平泉側におりにいた⁵⁾という。

初代清衡が平泉の関山山麓に居館を構える(1103)と、ともに行つた事業として注目されるのは、奥州南端の「白河の関」から北端の「外浜」まで貫通する古代の幹線道路「奥大道」の、一町ごとに「笠卒塔婆」を立てたことである(これは、わが国における道路標識の最初のものであつた)。そして、その上部面に金色の阿彌陀像を描くことによって、平泉が奥州中央の地であることを示したうえで、平泉のランドマークでもある関山丘陵上に中尊寺伽藍(多宝寺・釈迦堂・大長寿院からなる多宝寺伽藍と金色堂)を造営し(1105年から1124年)、「阿彌陀如来像」を安置したことである。なお、「中尊寺の中尊」の意味するところは①奥州の諸寺・諸仏の中尊、②諸仏・菩薩の中心(具体的には阿彌陀如来像のこと)、③全宇宙の中心等の諸説がある⁵⁾。

また、金色堂の正方(正面:東側)、北上川右岸の段丘上に、政庁平泉館を造営した(後の柳之御所:平泉館の北西部に位置する比高40mの天然の要害(岩)である高館が義経の居館になったところから「柳之御所」と呼ばれるようになったといわれる)。そのため、本研究では、高館及び猫間が淵(自然の外濠)によって囲まれた北東部台地の外部地区と猫間が淵南東部台地で、さらに人工的で大きな濠(空堀:上部幅で7mから10m、底幅3m、深さ5mから6m)によって囲まれた内部地区の一端を「柳之御所」と呼ぶことにする(図—1参照)。

このように考えると、清衡期の平泉館は、高館という天然の要害(岩:鉢巻堀の存在が確認されている)を備えた、複郭からなる館であったことになる。つまり、高館と猫間が淵という自然の地形を利用して防御した外部地区(外郭)と、その南東部の巨大な人工的な内濠(空堀)によって防御された内部地区(内郭)の複郭からなっていたと解釈できる(内堀の北西部と南西部においてはこの濠に平行する、さらに一条の堀(空堀)の存在が確認されている)⁷⁾。そして、この巨大な人工的な内濠(空堀)は地形の制約のためか完全な正方形ではなく中世北奥羽武士の城館に共通する特徴をみせるものの(写真—1)⁵⁾、清衡期の平泉館は極めて強大な政治・軍事的拠点施設であったことがわかる。

以上の、中尊寺伽藍の造営と平泉館の建設と同時に、平泉館から関山中尊寺までの幹線道を整備(幅員:約10m)して、これら二つの地域の施設を一体化している。また、四神相応の地のなかで、最もイメージが弱いと思われる塔山の南山麓で、古代の幹線道路「奥大道」の南西端に毛越寺伽藍(第一期毛越寺伽藍:1126)を造営し、「釈迦三尊像」を安置し、この一帯が平泉の表玄関となるように整備している(しかし、この第一期毛越寺伽藍は1129年に焼失している)。そして、清衡期の後半に、関山丘陵上の中尊寺と塔山南山麓の毛越寺の間で、古代の幹線道「奥大道」沿線に花館(廃)寺を建立している。

なお、関山丘陵—金色堂—平泉館(含高館:要塞)、

塔山丘陵—金堂円隆寺—大泉池，経塚山—花館（廃）寺—花館苑地の各々のなす基軸が東西軸，南北軸，東西軸であることから，四神相応の思想に基づいて，中尊寺伽藍という政治・軍事を象徴する新たな宗教装置の下に，都市の拠点施設の造営や基盤施設の整備に着手したものと推察される。



写真—1 平泉の館の東南部の堀跡

(斎藤利男：よみがえる中世都市，岩波新書より引用)

(3) 文化現象としての景観について

基衡期になって，平泉市街地南西部の塔山山麓に毛越寺伽藍[金堂円隆寺，講堂，常行堂，二階窓門（南大門），鐘楼，嘉勝寺，鼓楼，大泉池]を造営（第二期毛越寺伽藍の造営：1130年から1157年）し薬師如来像を主体に祀った。薬師如来の本願は国土の利益を説くところにあるという。中尊寺伽藍の仏像と毛越寺伽藍の仏像との本願の違いに注目されたい。その上で，この毛越寺近隣地域を都市・平泉の南（西部）の玄関口となるよう整備している。そして，ここからの通り，つまり毛越寺南面の東西直線街路を平泉市街地の大通り（シンボルロード；幅員20m）として整備することによって，平泉の都市軸を確定した。また，毛越寺の寺域設定に伴って，奥大道の南入り口の幅員の拡福及びルートの変更等がなされ，部分的ではあるが，平泉の大通り沿いに整然とした方形基調の街区（400尺×400尺≒121m×121m）が整備された（図—2参照）。

この時期の後半には，既述の奥大道と毛越寺南面の東西直線街路（シンボルロード）と市街地の東側に位置する南北の道路が整備されて，1幹線・1街路1道路が連結されたので，都市・平泉の南の玄関口に位置し，北上川の川湊である祇園・三日町（川・陸の物資の集散地）と毛越寺近隣地域及び清衡期に整備された平泉館と中尊寺近隣地域とが直結されることになった。つまり，基衡期の後半になって，都市・平泉の市街地の東西南北の領域が確定されたことになる。また，基衡期において，都市平泉領域の結界を示すために，東方に日吉・白山両社（中央惣社），南方に祇園社・王子諸社，西方に北野天神・金峰山，北方に今熊野・稲荷社の平泉四方鎮守が置かれたのは実に興味深いことである。

古代の人と物資が往来した陸の幹線・奥大道（幅員：10m；軍隊を移動させるための軍事機能をも担っていた）と古代末から中世初期における商工業経済の支えとなり，大量の物資が流動した水の幹線・北上川が接するわが国有数の都市，中世・平泉の文化表象の都市はこの基衡期から始まったといえる。

都市平泉の南の玄関口としての毛越寺伽藍への眺望と毛越寺南面の東西直線街路（シンボルロード）に沿って整然とした方形基調の街区が整備されたのを機に，次第にこの毛越寺近隣地域に漆職人，鍛冶職人，染色・裁縫職人，大工等の手工業者や多くの職人が住み着き，人口5万から10万を有する，のどかで，時には活気のある，そして人間の絆の強い，伝統文化に根ざした個性豊かな中世的町並みが形成されていったのである。基衡期における，都市平泉の，このような都市化現象は，世人の現世利益信仰と結びつきの深い毛越寺伽藍（薬師如来像を主体に安置）の建立と決して無関係ではないと考えられる。

(4) 心理現象としての景観について

陸奥守・鎮守府將軍に任命された秀衡は，まず，政庁平泉館の内郭，いわゆる人工濠（空堀）によって囲まれた内部地区一帯を再整備し，奥州の王の政庁に相応しく，そして都市平泉の顔となるように，政庁平泉館に大改修を加えた。具体的には，四間×九間の建物を東対とする荘重雄大な寝殿造りの建物にし，この寝殿造りの建物を漆喰塀で囲むとともに，前庭には美しい苑池をも作ったのである。そして，外郭である外部地区には秀衡の一族の屋敷を移築している。この政庁平泉館の大改修の後，秀衡の日常の居所を平泉館の南方で郭外に移築して「伽羅之御所」と呼んだ。一方，秀衡期の後半頃から，荘重雄大に改修された平泉館は既述のような意味もあって「柳之御所」と呼ばれているわけである。市街地が格子状パターンの街路網によって形成されるようになったので，防御の面においても比較的安全になり，居所と政庁を分離したと思われる。また，三代目の秀衡期になって始めて，持仏堂である無量光院を建立している。

金鶏山—無量光院及び関山—中尊寺，そして塔山—毛越寺をイメージ連想させることを狙って，無量光院の背後に位置する金鶏山山頂，及びこれに並行する関山丘陵と塔山山頂を，無量光院の東門（拝所への入り口：視点場）から同一視野で一体的に眺望させるというデザイン手法を用いながら，浄土教思想の具象的表現の極限的デザインであるといわれる金鶏山・無量光院を建立した（写真—2；無量光院跡）（図—6参照）。ここに，無量光院の東門跡からの金鶏山山頂に対する仰角は6度，同様に，関山と塔山の山頂に対する仰角はそれぞれ，4度及び6度であり，いずれの場合においても，山頂に対する「見られ頻度」が大きい仰角であることに注目されたい。なお，金鶏山には経文を経筒に入れて埋めた経塚があったことが明らかにされている（1930年）。

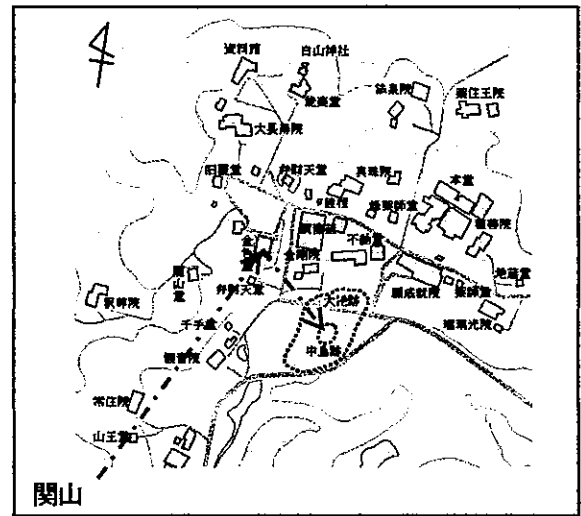
ともかく，このようなデザイン手法が歴史の経過と

論文

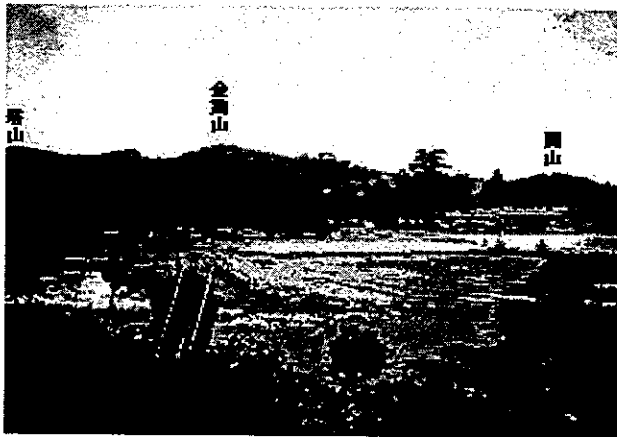
ともに衰退し、単なる「山あて」法となってしまったのは極めて残念なことである。

ここで、庭園と寺院からなる苑池式の既存の浄土式庭園を深化させて、平泉寺院独自の景観的構造を生み出すこととなった、いわゆる山容—寺院—苑池からなる三位一体の宗教景観⁵⁾のデザインについて、清衡期中尊寺（関山—金色堂—大池）そして、基衡期の毛越寺（塔山—金堂円隆寺—大泉池）及び秀衡期の無量光院【金鶏山—無量光院（本堂と拝所及び苑池）】を例に、その変遷について景観デザインの観点から詳述する。

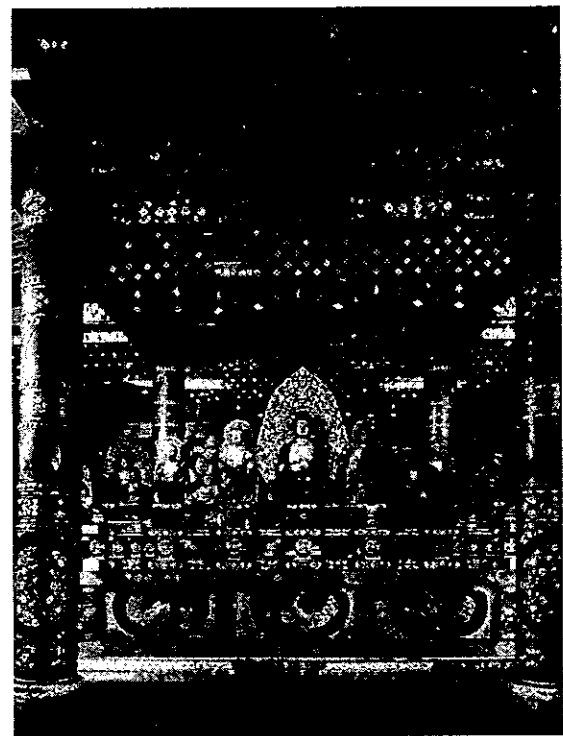
清衡期における中尊寺（関山—金色堂—大池）の景観的構造については、金色堂の敷地が関山丘陵上で狭いためか、関山—金色堂—大池三者のデザイン軸の向きについては特に強調すべきところはない（図—7）¹²⁾。これらの景観的構造に比べて、浄土教信仰を具現したといわれる阿彌陀堂建築（金色堂）の内部空間がとても美しく、金色堂は、浄土往來を体現した初代藤原清衡他3代の遺体が安置されているところでもあり、むしろ、金色堂の内部空間そのものが浄土の世界を象徴的に表現しており、都市平泉の理念的な原点になっているところに注目すべきである（写真—3）。



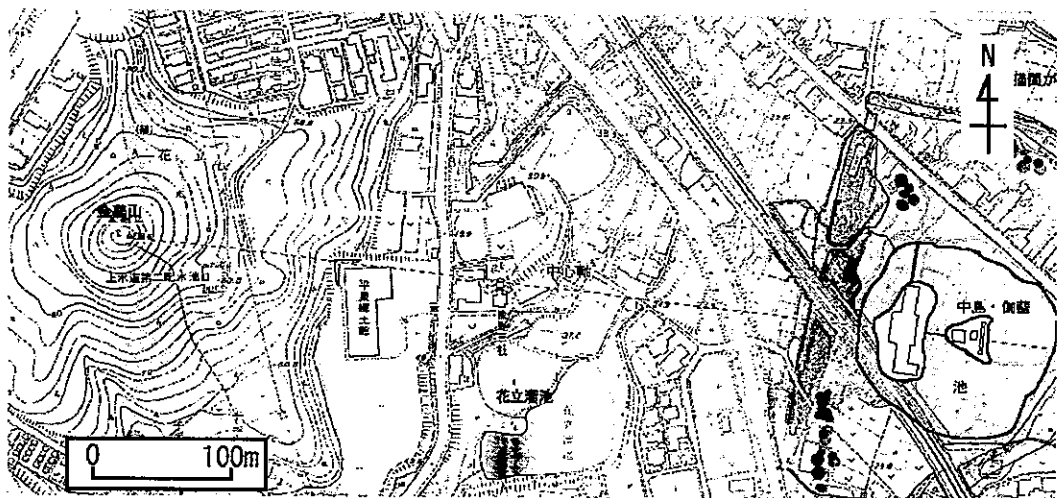
関山
図—7 中尊寺境内



写真—2 無量光院東門跡からの眺望



写真—3 中尊寺金色堂内陣



図—6 無量光院付近平面図

これに対して、基衡期建立の毛越寺（塔山—金堂円隆寺—大泉池）のデザイン軸は正確に南北軸となっているばかりでなく、金堂円隆寺の南大門（正面入口：拝所；視点場）からの塔山への仰角は山頂で13度、南北軸方向の塔山スカイラインへの仰角で10.5度である。また、北上川の東部に位置し、ここから約6km離れて、毛越寺の塀越しに借景される駒ヶ峰と、東稲山に対する仰角はそれぞれ4.6度及び4.5度である。塔山は山容の全体が程よく眺望できる仰角であるといえるし、借景される駒ヶ峰及び東稲山はスカイラインの見られ瀬度が大きい仰角であるといえる。これらの山々に、西側の丘陵を加えると、金堂円隆寺は三面が山によって囲まれた苑池式の浄土式庭園であるといえる。

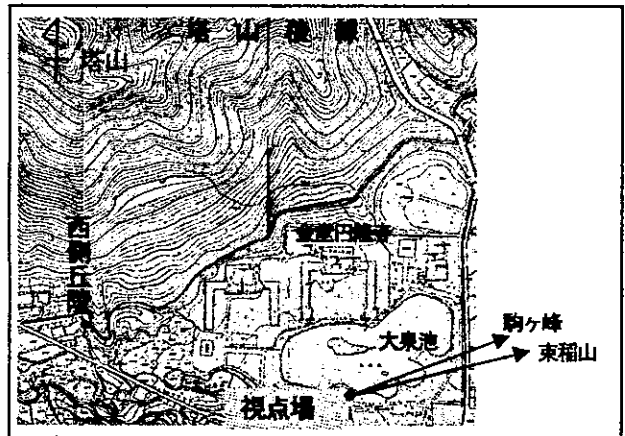
毛越寺の南大門（正面入口：拝所；視点場）からCG復元された金堂円隆寺¹³⁾屋根棟高までの仰角は9.4度の値を示す（CG復元写真—4参照）。したがって、メルテンスの法則によれば、ここ南大門から、金堂円隆寺は純絵画的に見える仰角（≒10度～12度）となっていることが知られるのである。

次に、金堂円隆寺前景の苑池・大泉池に注目してみる。苑池・大泉池全体の形は「心」の字を為しているため、苑路の主要な視点場から苑池の総ては眺望できなくなっており、金堂円隆寺の南大門（拝所；視点場）においては、左手側が築山を見立てるデザインになっており、その奥は見えず（写真—5）、苑池・大泉池全体が大きくイメージされるデザインになっている。また、此岸の金堂円隆寺南大門側（拝所；視点場）の右手側においては、荒磯を見立てた出島や飛び島（写真—6）あるいは砂洲と入江（写真—7）の自然風景が見立てられ、彼岸の金堂円隆寺側は、苑池・大泉池の汀線から金堂円隆寺側の境内までモノトーンの玉石が敷き詰められて、全体の法面勾配も路側で8割から9割、汀線で3割と低勾配で、法面も曲線からなっているところが多いため、安らぎ感があり、美しい（写真—8）。

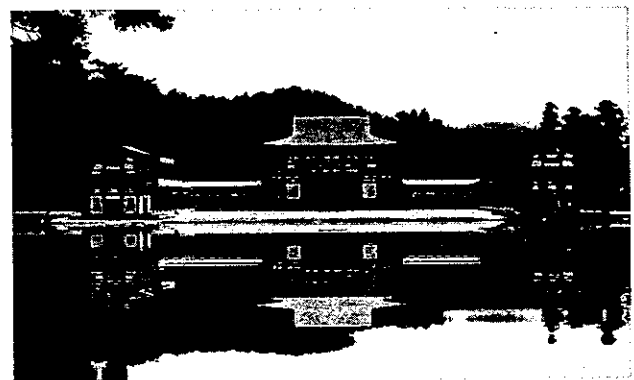
以上検討してきたように、塔山—金堂円隆寺—大泉池の三者の景観においては、そのデザイン軸がまだ東西軸にはなっていないことや、金堂円隆寺（浄土）が背後の塔山山麓（現世）から分離してなく塔山山麓から苑池まで遣水（写真—9）が存在したこと等から、現世（自然：山・池水）と来世（浄土）を渾然一体的に融合した現世の浄土景観であることが知られるのである。

秀衡期の無量光院〔金鶏山—無量光院（本堂と拝所）—苑池〕のデザイン軸は西方浄土の方向、つまり、東西軸となっている。さらに、無量光院本堂（詳細には本堂と拝所）の敷地は背後の金鶏山山麓から切り離されて、四周を池水で巡らしているところが既述の中尊寺と毛越寺の二つのデザインと大きく異なるところである。このように、デザイン軸は東西方向で西方浄土を向き、本堂と拝所は苑池によって囲まれたデザインこそ現世・此土を脱し、来世・浄土そのものを獲得したデザインであると考えられ、ここに至って、極限の現世の浄土景観が出現したことがわかる（図—6参照）¹⁴⁾。

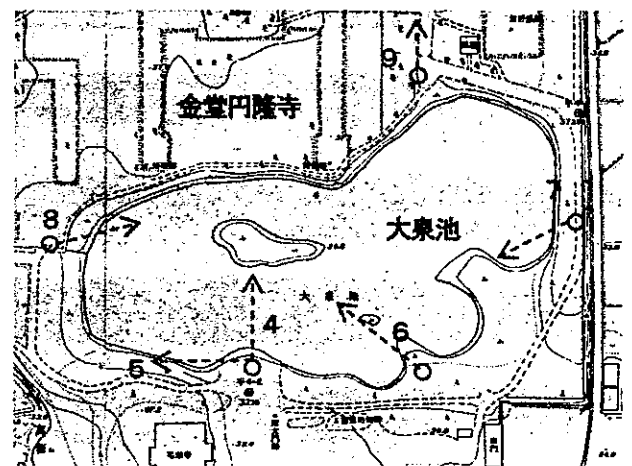
また、金鶏山—無量光院—苑池—東門—観音山を東西軸とするその間に私邸「伽羅之御所」を造営し、つまり、金鶏山—無量光院—苑池—伽羅之御所—観音山を東西軸一直線上に配置しているものと推察すれば、私邸において、日常的に、東の観音山（観音像）と昇る朝日を同時に拝み、西の金鶏山及び無量光院と沈む夕日を同時に拝むことができる空間デザインになっていることが知られるのである。ここに、政庁・柳之御所から私邸・柳之御所を移築した理由と持仏堂としての無量光院の存在価値を認めることができる。



図—8 金堂円隆寺南大門からの周囲の山並みへの眺望

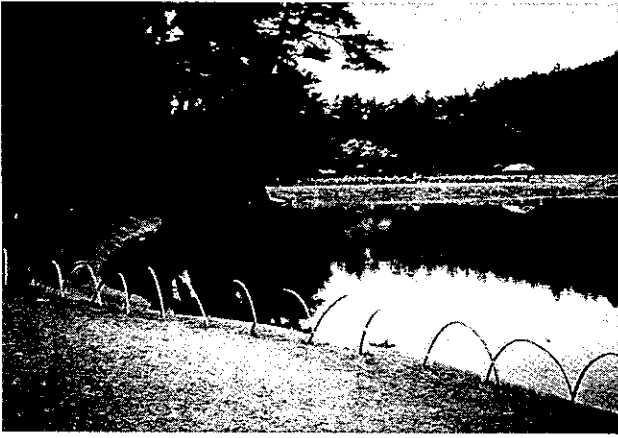


写真—4 CG復元円隆寺合成写真



番号は写真番号を、○印は撮影地点を示す。

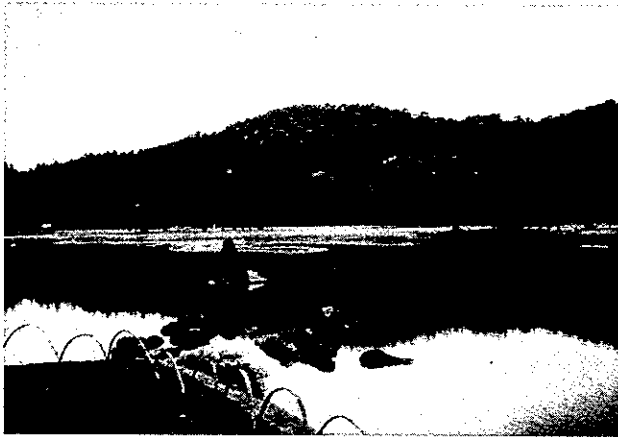
図—9 大泉池平面図



写真—5 大泉池 (南大門跡西方の築山)



写真—8 大泉池西端



写真—6 大泉池 (出島・飛び島)



写真—9 遣水



写真—7 大泉池東端 (州浜)

4. 結論

本論文は、誕生してから滅亡するまで百年余りという歴史を有する、古代末期の奥州最大の都市平泉を取り上げ、人間の脳機能の進化とのアナロジーから得られた都市の胎生的進化モデル³⁾を下敷きに「都市の発達モデル」を仮説立て、その検証を試みたものである。本研究を通して得られた結果を要約すれば、以下のように示される。

- (1) 誕生してから滅亡するまでの百年余りの都市平泉は、螺旋段階的に推移する4つのテーマ、つまり生物的環境(原都市)、インフラ機能空間(清衡期)、文化現象としての景観(基衡期)、心理現象としての景観(秀衡期)によって、重層的、時系列的にデザインされ、発達(再体制化)してきたことを明らかにした。
- (2) 古代の都市平泉は風水思想に基づく「四神相応の地」として占地された。なお、古代の都市平泉の四神相応とは東に北上川があり青龍、南に低湿地があり朱雀、西には奥大道があり白虎、そして北には関山丘陵があつて玄武、これをいう。これらの四神が相応する地を「蔵風得水の地」として都市平泉の理想の地相とした。また、古代日本を代表する都市平泉のランドスケープとそれを規定し

ているランドスケープの構成要素を明らかにし、ランドスケープの都市デザイン上の意味と役割を明らかにした。

- (3) 金鶏山—無量光院及び関山—中尊寺、そして塔山—毛越寺をイメージ連想させることを狙って、無量光院の背後に位置する金鶏山山頂、及びこれに並行する関山丘陵と塔山山頂を、無量光院の東門（拝所への入り口：視点場）から同一視野で一体的に眺望させるというデザイン手法により、浄土教思想の具象的表現の極限的デザインであるといわれる金鶏山・無量光院の位置を選定し、建立していることを景観工学的に明らかにした。
- (4) 平泉寺院独自の景観的構造を生み出すに至った、いわゆる山容—寺院—苑池からなる三位一体の浄土庭園のデザインについて、清衡期の中尊寺（関山—金色堂—大池）そして、基衡期の毛越寺（塔山—金堂円隆寺—大泉池）及び秀衡期の無量光院〔金鶏山—無量光院（本堂と拝所及び苑池）〕を取りあげ、これらのデザインの変遷について景観工学的に詳述した。
- (5) 中世を導く都市平泉の研究を通して、自然が住民の生活や生産と結びつき、歴史と伝統が住民の日常生活の基底に流れていることが確認でき、今後のまちづくりのための有用な情報を得た。
- (6) 「都市の発達モデル」は筆者等の既発表論文である「都市の胎生的進化モデル」の縮尺モデルであることを明らかにした。

参考・引用文献

- 1) 安藤昭, 赤谷隆一: 都市アメニテイ計画論, 土木学会第3回年次学術講演会講演概要集第4部, pp. 97-98, 1984
- 2) 安藤昭: 第四版土木工学ハンドブック I, 土木学会編, pp. 817, p. 841, pp. 843, 1998
- 3) 安藤昭, 赤谷隆一: 感覚統合理論による都市景観設計の体系化, 土木学会論文集 No. 653/48, pp. 3-75, 2000
- 4) 藤島亥次郎: 発掘された平泉夢のあと, pp. 1-178, 岩手日報社, 1961

- 5) 斉藤利男: よみがえる中世都市, pp. 1-243, 岩波新書, 1992
- 6) 前川佳代: 平泉の苑池, 平泉文化研究年報第1号, pp. 1-25, 岩手県教育委員会, 2001
- 7) 入間宣夫, 本澤慎輔編: 平泉の世界, pp. 1-292, 高志書院, 2002
- 8) 樋口忠彦: 景観の構造, pp. 1-168, 技法堂出版, 1975
- 9) 内藤昌: 江戸と江戸城, pp. 1-244, 鹿島出版, 1975
- 10) 高橋富雄: 平泉—奥州藤原四代, pp. 98-103, 教育社, 1978
藤原清衡は「中尊寺供養願文」(1126)の中で、(中略)高いところには山を施し、窪地には池を掘った。このようにして「竜虎は宜しきに叶う」という「四神具足の地」となったと伝えており、平泉の選地に際しても「四神相応の地」を意識したと考えられる。
- 11) Kevin Lynch: The Image of the City, pp. 1-193, MIT Press, 1990
- 12) 特別史跡中尊寺境内大池跡整備基本構想報告書, pp. 1-25, 平泉町編集, 2005
- 13) 長谷川順一, 来迎高志, 安藤昭, 赤谷隆一, 南正昭: OGによる毛越寺の再現と景観の解析, 観光まちづくり学会誌, Vol-3, pp. 8-15, 2005
- 14) 特別史跡無量光院跡整備基本計画書, pp. 1-50, 平泉町編集, 2005

注1) 人間の脳の大脳基底核, 大脳辺縁系, 大脳皮質の三つの脳は, それぞれ大脳基底核 (誕生~6歳), 大脳辺縁系 (1歳~12歳), 大脳皮質 (3歳~18歳) の時期, つまり誕生時から3機能ともに急成長し, 幼児期, 児童期, 青年期を通して逐次緩やかに発達していくことは既に知られている。これを日本の都市の胎生的進化の過程においてアナロジー的に検討し, ほぼ平安時代以降の都市であれば「都市の発達モデル」に基づいて都市の発達を解釈できるとしている。

参考・引用図

図-1~3, 図-5は入間宣夫, 本澤慎輔編: 平泉の世界, pp. 167-174, 高志書院, を参考に作成(作成者: 河野泰浩)

(2010.9.18受理)

RESEARCH ON CITY DESIGN OF HIRAIZUMI, LARGEST CITY OF ANCIENT IN OSHU WHERE THE MIDDLE AGES IS LED - BASIC RESEARCH ON DEVELOPMENTAL MODEL OF THE CITY -

Akira ANDO

In this paper we deal with the hundred-year history of Hiraizumi, the largest city in Oshu district at the end of the ancient times in Japan. And we try to assume the existence of inevitable themes which vary with spiral across the ages, such as "Organic environment (Original period)" "infrastructural function space (Kiyohira period)" "Landscapes as a cultural phenomenon (Motohira period)" "Landscapes as a psychological phenomenon (Hidehira period)", and we try to prove their validity.

In the result, the developing process of Hiraizumi is presented as one of "developmental model of the city". This research is the first attempt to prove the developing process of the city which has existed for hundred years in history as "developmental model of the city". And useful information for the total environmental formation in the future is being offered.

札幌市豊平区における ごみステーションの 景観評価について

安藤昭¹・横枕秀和²・久慈裕哉³

¹正会員 工博 北海医科大学 商学部観光産業学科 (〒062-8607 札幌市豊平区豊平6-6-10)

E-mail ando@hokkai.ac.jp

²⁻³学生会員 北海医科大学 商学部観光産業学科 (〒062-8607 札幌市豊平区豊平6-6-10)

E-mail ando@hokkai.ac.jp

本研究は、札幌市豊平区におけるごみステーション群を取り上げ、ごみステーションの景観評価について計量心理学的手法を用いて尺度化し、デザイン上の課題を明らかにしようとするものである。分析の結果、①周囲の建築物や塀類とトータルにデザインされたもので、不可視（街路上からごみが見えない）ものは評価が高い。②可視（街路上からごみが視ける）ものはごみが視けるといっただけで評価が低くなる傾向がある。③そのため、ネット形式のもの評価が低く、特にネットの色彩の如何にかかわらず、ネット形式（木枠単体）のものは街路景観の阻害要素になっている。④機能性に比べてデザイン性を重要視して評価する傾向がある。⑤共同使用のものより自宅管理（マンション管理を含む）のもの評価が高いことが解った。

Key Words: Paired comparison of disliking-liking of dust stations, Residential area of Sapporo city, Information theory of Shannon,

1. はじめに

都市計画とは都市の空間・景観、都市施設、都市の整備・開発・保全及び環境問題に関する分野の思想と制度と技術を扱う学問である。都市計画は基本計画と法定計画に2大別して示すことができる。基本計画は法定計画に方向性を与えるものであるから、基本計画には住民参加のもとに都市計画の基本方針（マスタープラン）を示し、全体及び地区別の総括的な土地利用計画（land use plan）を立案するという役割と土地利用規制の体系である地域制（Zoning）を具体的かつ体系的に策定するという役割がある。わが国の昭和35年（1960）以来の高度成長期、安定成長期から低成長期という成長型社会における都市の基本計画は、計画が事業本位だったこともあって後者の側面が強いものであった。

平成4年（1992）の都市計画マスタープランの創設、用途地域制の拡充そして誘導容積制度の創設等の都市計画法の新改正、及び平成12年（2000）の都市計画区域マスタープランの施行、特別用途地域制の多様化、そして準都市計画区域の施行等の都市計画法の改正を通して、都市化から郊外化現象に対応してきたが、逆都市化から再都市化現象に伴う都市域のスマートシュリンク（smart shrink: 郊外からの賢い撤退）や市町村合併（市町村合併特例法の施行：平成7年から平成17年）後の都市計画が必要になった今日、基本計画は前者の側面がクローズアップされることになった。

現在は、新時代の都市の再生（中心市街地の空洞化や情報システムの遅れへの対応等）、成熟社会の都市創造（少子高齢化への対応）、都市の美しさ、個性、ゆとり、うるおい、にぎわい感の創出、大都市のごみゼロ都市の構築、東京一極集中への対策、平成の大合併後の都市のリデザイン（Redesign）、地方中小都市衰退の具体的な対策等が重要な課題になっている。このうち、都市景観デザインに注目すると、近年になって都市計画区域の約70%を占める住居系地域の地区デザイン、つまり都市の生活景のデザイン¹⁾が注目されるようになってきた。日本人は「美に敏感しかし醜に鈍感」といわれて久しいが、そのような中、電柱²⁾、広告・看板³⁾、自動販売機⁴⁾に関する修景デザインの研究は数多く存在するが、ごみステーションに関する研究は住民の生活環境の質の向上や来訪者のための観光まちづくりに寄与するところが大きいにもかかわらず少ない。本研究は、大都市の住居系地域である札幌市豊平区におけるごみステーション群を取り上げ、ごみステーションの景観評価について計量心理学的手法を用いて尺度化し、景観デザイン上の課題を明らかにしようとするものである。

2. 札幌市豊平区の現状

豊平区は、札幌市の南東部に位置し、北は東北通で白石区、西は豊平川を隔てて中央区、南西部は南区、東は清田区と接し、面積46.35km²、人口212,000人（平成22年9月

9月1日現在)を有している。かつて、牧場や田畑、果樹園が広がり、豊平の生産を支えてきた西岡・福住・美園・東月寒地区は、緑豊かな丘陵地と山林、望月寒川・月寒川等の豊かな自然に恵まれた4階程度のビルが混在する(中には中高層マンションが点在する)比較的落ち着いた住宅地を形成している。街路パターンはグリッドパターンで、街路幅員も広い。地区公園や街区公園は整然と要所に整備されている。北海学園大学・北海商科大学、羊が丘展望台、札幌ドームを有する札幌市の近郊に位置する典型的な住居系地域である(図-1参照)

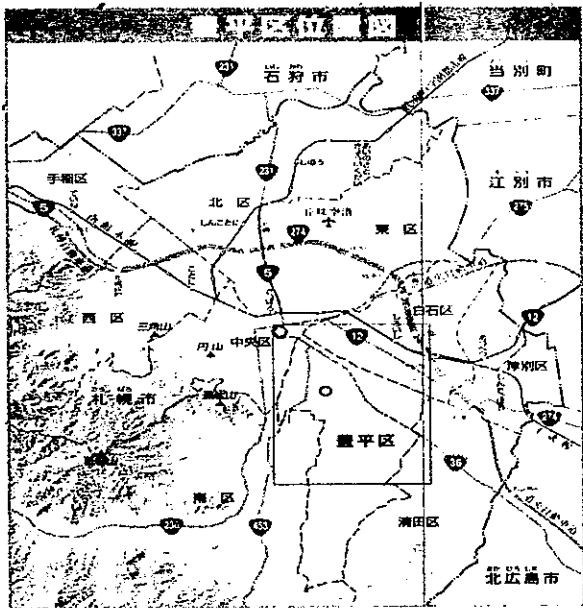


図-1 豊平区位置図

3. 景観対象の選定

対象とする「ごみステーション」の選定にあたっては、限られた調査の時間と経費を考慮して、次の2点を基準に選定した。

①用途地域及びごみステーションの選定条件

調査する用途地域は住居系地域で、ごみステーションの選定条件は多くのごみステーションの縮尺モデルとなるように選定する。

②街路条件

大通り、繁華街、表通り、裏通り、路地・辻の5つの街路類型の中からできるだけ偏りがないように選定する。

以上の2つの条件を同時に満足するごみステーションとして、写真-1 ネット形式(木枠単体)、写真-2 網戸形式(コンクリート塀一体型)、写真-3 ネット形式(コンクリート塀一体型)、写真-4 ネット形式(木枠単体)、写真-5 ビルディングトータルデザイン(サッシドア材)、写真-6 ボックス型(木材)、写真-7 シャッター形式(タイル塀トータルデザイン)、写真-8 ボックス形式(スチール材)、写真-9 ボックス形式2連タイプ(スチール材+コンクリート枠)、写真-10 ネット形式(コン

リート塀一体型)、写真-11 サッシ戸形式(カラーコンクリート単体型)、写真-12 ビルディングトータルデザイン(スチール材)、写真-13 コンクリート塀トータルデザイン(化粧コンクリート材)、写真-14 ネット形式(カラーレンガタイル枠単体)を景観対象として選定した(写真-1~写真-14を参照)。

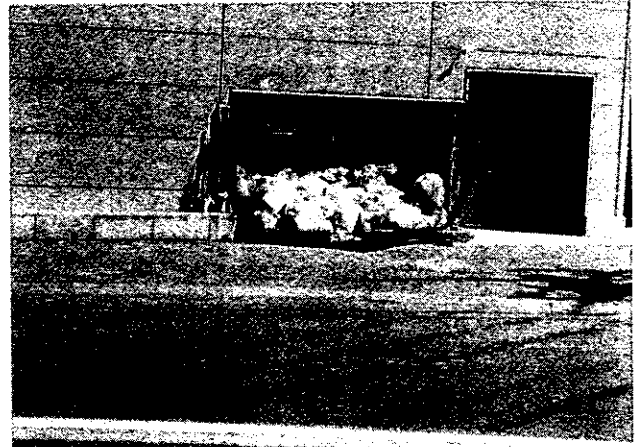


写真-1 ネット形式(木枠単体)



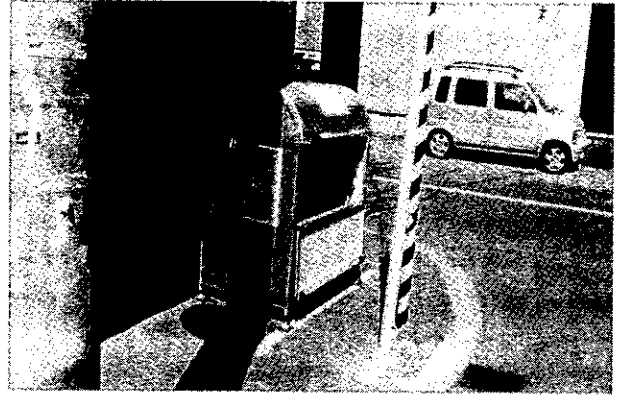
写真-2 網戸形式(コンクリート塀一体型)



写真-3 ネット形式(コンクリート塀一体型)



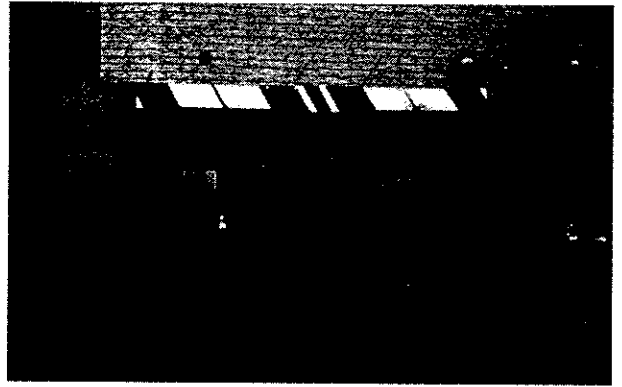
写真—4 ネット形式 (木枠単体)



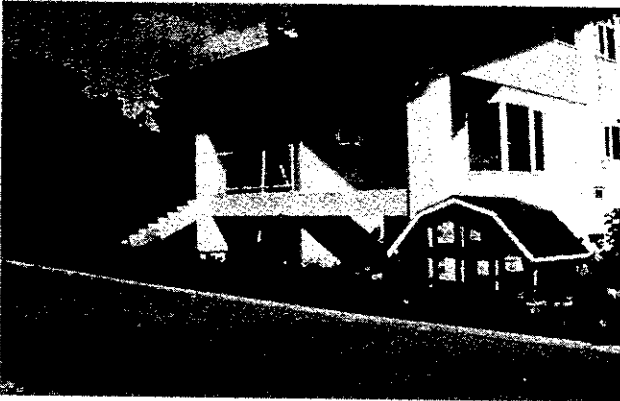
写真—8 ボックス形式 (スチール材)



写真—5 ビルディングトータルデザイン (サッシドマ材)



写真—9 ボックス形式2連タイプ



写真—6 ボックス型 (木材)



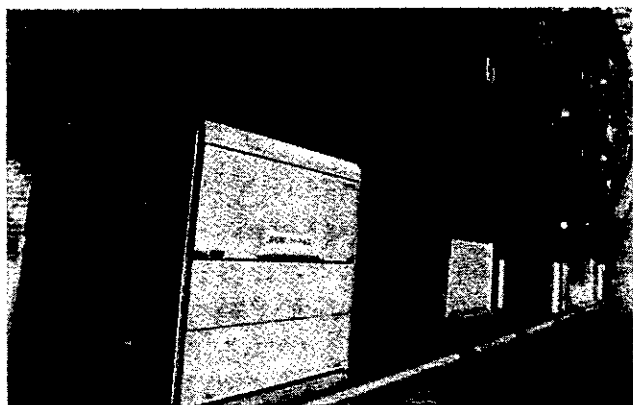
写真—10 ネット形式 (コンクリート塀一体型)



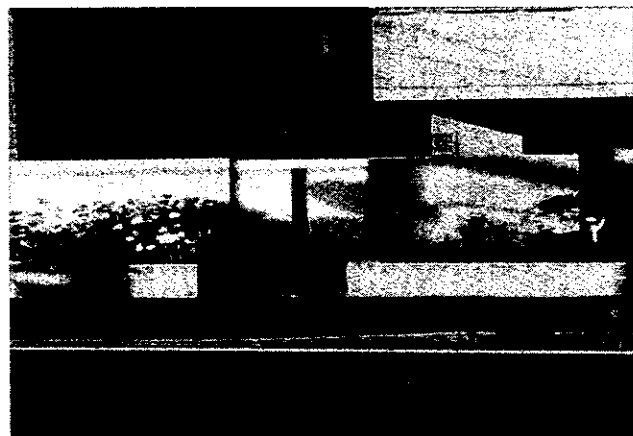
写真—7 シャッター形式 (タイル塀トータルデザイン)



写真—11 サッシ戸形式 (カラーコンクリート単体型)



写真—1 2 ビルディングトータルデザイン



写真—1 3 コンクリート塀トータルデザイン



写真—1 4 ネット形式 (カラーレンガタイル枠単体)

4. 景観調査の方法

景観調査の目的は、ごみステーションそれぞれの景観評価を尺度化すること及びごみステーションの景観評価要因を検討するために、生活景の中のごみステーションを撮影することである。現地撮影は次の3点に従って実施した。

①撮影方式

カメラはニコン (COOLPIX) で、レンズは標準レンズを使用した。

②撮影基準

景観対象は歩道上、及び歩道から余り離れていない良好な視点場において、撮影者の目の高さ約1.6mの高さで撮影するものとした。

③撮影条件

景観は季節、天候、時刻等によって刻々変化する。そのため、撮影にあつては一定の条件を設けて撮影する必要がある。本研究では、季節を夏季、天候を晴れ、時刻を10:時~15:時とした。なお、調査期間は平成22年7月10日~7月31日である。

5. 景観解析の方法

1) 景観評価の尺度化

景観対象の尺度化にはサーストンの一対比較法⁵⁾を適用した。この解析理論と実験の手順は次のとおりである。

景観 (評価対象) R_j が繰り返し与えられると、それに対しそのつど尺度上の一点 X_{jt} によって表されている心理的過程が生起するものとする。かつ、 X_{jt} は平均 \bar{X}_j 、標準偏差 σ_j の正規分布に従う確率変数と仮定する。すなわち、 $X_{jt}; N(\bar{X}_j, \sigma_j^2)$ (1)

一対 R_j, R_k に対する反復 t における比較判断は X_{jt} と X_{kt} のいずれかが尺度上上位にあるかによって定まるものとする。すなわち、

$$\begin{aligned} X_{jkt} &= (X_{jt} - X_{kt}) \text{ とすれば} \\ X_{jkt} > 0 &\rightarrow R_j > R_k \\ X_{jkt} < 0 &\rightarrow R_j < R_k \end{aligned} \quad (2)$$

X_{jkt} もまた確率変数で、その分布は正規分布の加法性より、

$$X_{jkt}; N\{\overline{(X_j - X_k)}, \sigma_{jk}^2\} \quad (3)$$

$$\sigma_{jk}^2 = \sigma_j^2 + \sigma_k^2 - 2S_{jk} \sigma_j \sigma_k \quad (4)$$

である。ただし、 S_{jk} は X_{jt} と X_{kt} の相関係数、したがって

$$\overline{(X_k - X_j)} = X_{jk} (\sigma_j^2 + \sigma_k^2 - 2S_{jk} \sigma_j \sigma_k)^{1/2} \quad (5)$$

ここで、 X_{jt} と X_{kt} とは独立、すなわち $S_{jk} = 0$ とし、さらに各 R_j に対する変動の大きさ σ_j を一定とし σ とする。

$\sqrt{2}\sigma$ を単位にして X の尺度を表すと

$$x_{j,k} = \bar{X}_k - \bar{X}_j \quad (6)$$

である。したがって、実測値 $x_{j,k}$ から X を求めるためには

$$Q = \sum \sum \{x_{j,k} - \overline{(X_k - X_j)}\}^2 \quad (7)$$

の最小自乗解を求めるとよい。行列の対称性と原点

$$\sum_{j=1}^n \bar{X}_j = 0 \text{ を考慮すると次式で与えられる。}$$

$$\bar{X}_k = (1/n) \cdot \sum_{j=1}^n x_{j,k} \quad (8)$$

以上により X_k の平均値を原点、 $\sqrt{2}\sigma$ を単位として各 R_k に対する X_k の尺度値上の位置が計算される。

実験方法は北海商科大学の小教室において、既述のごみステーションのカラーライド14枚について、2台のプロジェクターを用いて同時に映写し、「総合的に見て

論文

好きなごみステーションはどちらか」を被験者に比較判断させたものである（実験は3回に分けて実施し、所用の用紙に○印をつけさせた）。スライドはランダムに提示し、14 (14-1) / 2 = 91回一対比較したことになる。なお、被験者は満20歳以上の成人32名〔北海商科大学の男子学生23名、女子学生9名（留学生2名含む）〕である。

2) 景観評価要因の分析の方法

ごみステーションの景観評価はどのような要因によって支持されているのであろうか。この点を明らかにするための景観評価要因の分析には情報理論を適用した。情報理論はシャノン (C. Shannon) によって導かれて以来、電気、通信、科学的観察等多くの分野において基礎的な過程の解析に広く適用されている⁶⁾。景観評価要因の分析に用いた Shannon の情報理論の変形式は次式のように示される。

いま、 i 景観に対する景観評価要因 j についての反応総数を F_{ij} 、全景観に対する景観評価要因 j についての反応総数を F_j とすると

$$F_j = \sum_{i=1}^n F_{ij}, \quad F_i = \sum_{j=1}^m F_{ij} \quad (9)$$

となる (n ; 景観数, m ; 景観評価要因数)。次に確率を次のように定義する。景観評価要因 j についての任意の景観に対して、

$$P_{ij} = F_{ij} / F_i \quad (10)$$

したがって、

$$\sum_{j=1}^m P_{ij} = 1 \quad (11)$$

となる。景観評価要因 j が与えられたとき全景観がこの要因によって支持される数は組合わせ理論により、

$$P_j = F_j! / \prod_{i=1}^n F_{ij}! \quad (12)$$

よって全景観が j 評価要因によって支持される情報量 H_j は、

$$H_j = K \log_2 P_j = K [\log_2 (F_j!) - \sum_{i=1}^n \log_2 (F_{ij}!)] \quad (13)$$

ここで Stirling の公式

$$\log_2 Q! \approx Q(\log_2 Q - 1) \quad (14)$$

を用いて、全景観の景観評価要因 j によって支持される平均的情報量を求める。ここで定数 K を $K = 1 / (N \cdot \log_2 n)$ (ただし、 N は全景観、全景観評価要因に対する反応総数) とすれば、(13) 式は次のようになる。

$$H_j = 1 / N \log_2 n \cdot [F_j \log_2 F_j - \sum_{i=1}^n F_{ij} \log_2 F_{ij}] \quad (15)$$

ただし、 $0 \leq H_j \leq 1$

この (15) 式を景観評価要因 j が与えられたとき、全ての景観がこの評価要因によって支持される確実性を示す情報量インデクスとして使用した。ここに、情報量 H_j が 1 に近いほど、その要因によって選ばれる確率が高いことになる。

実験の方法は、ごみステーションの景観評価の分析結果より、上位5箇所の景観を選定し、これを北海商科大学の25人用小教室においてそれぞれスライド映写し、意識される風景評価要因について被験者に答えてもらうアンケート調査によったものである。実験は実際の現場における網膜像パターンとスライドによって再現される網膜像パターンをできるだけ同一にすることを考えて、スライドの拡大率を80倍に、視点を約4mに固定した。また、アンケート用紙 (○印) の記入のしやすさを考えて机と椅子を使用し着席して行われた。被験者は既述の満20歳以上の成人学生32名である。

6. 分析結果および考察

ごみステーションの景観評価の一対比較法による実験結果を表-1に示す。

表-1 一対比較法の実験結果 (度数表)

	1	2	3	4	5	6	7	8	13	10	11	12	9	14
1		30	21	10	28	30	28	30	31	28	27	32	28	29
2	2		4	4	24	23	25	17	24	10	14	23	19	6
3	11	28		6	31	30	29	25	30	19	21	25	23	7
4	22	28	26		30	32	30	32	31	31	29	30	30	28
5	4	8	1	2		15	20	18	14	7	5	21	15	5
6	2	9	2	0	17		15	13	13	8	7	23	15	6
7	4	7	3	2	12	17		11	11	10	9	17	14	5
8	2	15	7	0	14	19	21		18	13	9	20	16	5
13	1	8	2	1	18	19	21	14		7	9	20	13	3
10	4	22	13	1	25	24	22	19	25		14	23	18	5
11	5	18	11	3	27	25	23	23	23	18		27	23	9
12	0	9	7	2	11	9	15	12	12	9	5		15	3
9	4	13	9	2	17	17	18	16	19	14	9	17		6
14	3	26	25	4	27	26	27	27	29	27	23	29	26	

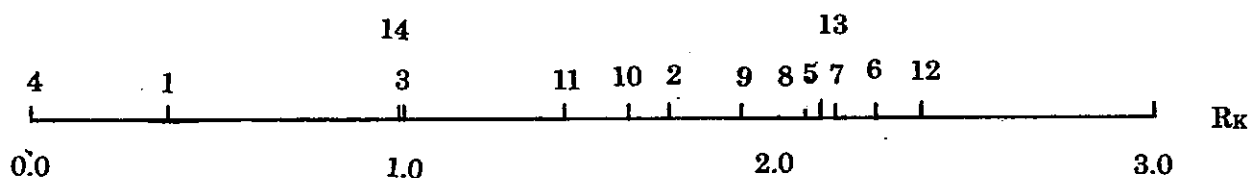
表-2 実測相対頻度 (P_{jk})

	1	2	3	4	5	6	7	8	13	10	11	12	9	14
1		0.938	0.656	0.313	0.875	0.938	0.875	0.938	0.969	0.875	0.844	1.000	0.875	0.906
2	0.063		0.125	0.125	0.750	0.719	0.781	0.531	0.750	0.313	0.438	0.719	0.594	0.188
3	0.344	0.875		0.188	0.969	0.938	0.906	0.781	0.938	0.594	0.656	0.781	0.719	0.219
4	0.688	0.875	0.813		0.938	1.000	0.938	1.000	0.969	0.969	0.906	0.938	0.938	0.875
5	0.125	0.250	0.031	0.063		0.469	0.625	0.563	0.438	0.219	0.156	0.656	0.469	0.156
6	0.063	0.281	0.063	0.000	0.531		0.469	0.406	0.406	0.250	0.219	0.719	0.469	0.188
7	0.125	0.219	0.094	0.063	0.375	0.531		0.344	0.344	0.313	0.281	0.531	0.438	0.156
8	0.063	0.469	0.219	0.000	0.438	0.594	0.856		0.583	0.406	0.281	0.625	0.500	0.156
13	0.031	0.250	0.063	0.031	0.563	0.594	0.656	0.438		0.219	0.281	0.625	0.406	0.094
10	0.125	0.688	0.406	0.031	0.781	0.750	0.688	0.594	0.781		0.438	0.719	0.563	0.156
11	0.156	0.563	0.344	0.094	0.844	0.781	0.719	0.719	0.719	0.563		0.844	0.719	0.281
12	0.000	0.281	0.219	0.063	0.344	0.281	0.469	0.375	0.375	0.281	0.156		0.469	0.094
9	0.125	0.406	0.281	0.063	0.531	0.531	0.563	0.500	0.594	0.438	0.281	0.531		0.188
14	0.094	0.813	0.781	0.125	0.844	0.813	0.844	0.844	0.906	0.844	0.719	0.906	0.813	

表—3 偏差値 X_{jk} および計算表

	1	2	3	4	5	6	7	8	13	10	11	12	9	14
1		1.54	0.41	-0.48	1.16	1.54	1.16	1.54	1.87	1.16	1.02	3.59	1.16	1.32
2	-1.54		-1.16	-1.16	0.68	0.58	0.78	0.08	0.68	-0.48	-0.15	0.58	0.24	-0.89
3	-0.41	1.16		-0.89	1.87	1.54	1.32	0.78	1.54	0.24	0.41	0.78	0.58	-0.78
4	0.48	1.16	0.89		1.54	3.59	1.53	3.59	1.87	1.87	1.32	1.54	1.54	1.15
5	-1.16	-0.68	-1.87	-1.54		-0.08	0.32	0.16	-0.15	-0.78	-1.01	0.41	-0.08	-1.01
6	-1.54	-0.58	-1.54	-3.59	0.08		-0.08	-0.24	-0.24	-0.67	-0.78	0.58	-0.08	-0.89
7	-1.16	-0.78	-1.32	-1.53	-0.32	0.08		-0.41	-0.41	-0.48	-0.58	0.08	-0.15	-1.01
8	-1.54	-0.08	-0.78	-3.59	-0.16	0.24	0.41		0.15	-0.24	-0.58	0.32	0.00	-1.02
13	-1.87	-0.68	-1.54	-1.87	0.15	0.24	0.41	-0.15		-0.78	-0.58	0.32	-0.24	-1.32
10	-1.16	0.48	-0.24	-1.87	0.78	0.67	0.48	0.24	0.78		-0.15	0.58	0.16	-1.01
11	-1.02	0.15	-0.41	-1.32	1.01	0.78	0.58	0.58	0.58	0.15		1.01	0.58	-0.58
12	-3.59	-0.58	-0.78	-1.54	-0.41	-0.58	-0.08	-0.32	-0.32	-0.58	-1.01		-0.08	-1.32
9	-1.16	-0.24	-0.58	-1.54	0.08	0.08	0.15	0	0.24	-0.16	-0.58	0.08		-0.89
14	-1.32	0.89	0.78	-1.15	1.01	0.89	1.01	1.02	1.32	1.01	0.58	1.32	0.89	
ΣX_{jk}	-16.99	1.76	-8.14	-22.07	7.47	9.57	7.99	6.87	7.91	0.26	-2.09	11.19	4.54	-8.25
$\frac{\Sigma X_{jk}}{n}$	-1.21	0.13	-0.58	-1.58	0.53	0.68	0.57	0.49	0.57	0.02	-0.15	0.80	0.32	-0.59
R_k	0.37	1.71	1.00	0.00	2.11	2.26	2.15	2.07	2.15	1.60	1.43	2.38	1.90	0.99

1. ネット形式 (木枠単体)
2. 網戸形式 (コンクリート枠)
3. ネット形式 (コンクリート塀)
4. ネット形式 (木枠単体)
5. ビルディングトータルデザイン (サッシドア材)
6. ボックス型 (木材)
7. シャッター形式 (タイル枠) (タイル塀トータルデザイン)
8. ボックス形式 (スチール材)
9. ボックス形式2連タイプ (スチール材) (コンクリート枠)
10. ネット形式 (コンクリート塀一体型)
11. サッシ戸形式 (カラーコンクリート単体型)
12. ビルディングトータルデザイン (スチール材)
13. コンクリート塀トータルデザイン (化粧コンクリート材)
14. ネット形式 (カラーレンガタイル枠・単体)



図—2 景観尺度図

表—1において上欄の景観が左欄の景観より“好き”と答えた人数である。さらに、表—1の度数を比率に直し、“好き”とされる景観の割り合いを求めたのが表—2である。表—2の値は正規分布をなすので、正規分布表より偏差値 X_{jk} (表—3) を求める。表—3において $\Sigma X_{jk}/n$ はその平均値である。また、 R_k は $\Sigma X_{jk}/n$ 中の最低値を0として示したときの値である。

図—2はこの R_k 値を数直線上に示し、尺度化したものである。以上の分析結果を踏まえて、評価の高かった上位5か所のごみステーションについて行った景観評

価要因の分析結果を表—4に示す。なお景観評価要因の分析に際して用いた評価要因は表—5のように示される。

図—2の景観尺度図から知られるように、評価の高かった上位4位までを挙げれば、第1位が写真—12ビルディングトータルデザイン (スチール材)、第2位が写真—6ボックス型 (木材)、第3位が写真—7シャッター形式 (タイル塀トータルデザイン)、第4位が写真—13コンクリート塀トータルデザイン (化粧コンクリート材) であることが知られ、不可視型 (ごみ

が街路から見えない) デザインのもので、周囲の建築物や塀類とトータルデザインされたものであることが解る。また、これら4つのごみステーションは、全て民有地側に存在していることも注目される。

表—4 上位5か所の景観評価要因の分析結果

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
12	10	9	8	9	5	7	13	9	1	8	9	12	100(%)
6	11	13	9	8	4	10	12	2	7	11	2	11	100(%)
7	9	11	9	10	3	9	13	5	3	11	6	11	100(%)
13	9	12	9	7	4	10	16	5	1	10	9	8	100(%)
5	9	9	10	9	5	11	10	7	1	11	6	12	100(%)
F _i	48	54	45	43	21	47	64	28	13	51	32	54	N=500
H _p	0.10	0.11	0.09	0.09	0.04	0.09	0.13	0.05	0.02	0.10	0.06	0.11	
R ₁₂	4	2	6	6	11	6	1	10	12	4	9	2	

注) 列の数字は景観写真番号を示し、行の記号は景観評価要因を示す。

表—5 景観評価要因の分析に用いた評価要因

A	ごみステーションのデザイン (大きさ・形・色) が良い。
B	ごみステーションが周辺景観と調和している。
C	ごみステーションの材質や材質感が良い。
D	配置 (建築物側) が良い。
E	配置 (車道側) が良い。
F	建築物とのトータルデザインが良い。
G	ごみの隠れ度が良い。
H	ごみを収集しやすそうなデザインが良い。
I	街路樹との調和が良い。
J	住宅地域のイメージとマッチしている。
K	ごみを出しやすそうなデザインが良い。
L	カラスから保護するデザインが良い。
M	その他の理由。

一方、評価の低かった下位の4つを挙げれば、写真—3 ネット形式 (コンクリート塀一体型)、写真—14 ネット形式 (カラーレンガタイル柵・単体)、写真—1 ネット形式 (木柵単体)、写真—4 ネット形式 (木柵単体) の可視型 (街路からごみが見える) ネット形式のものであることが知られ、中でもネット形式 (木柵単体) で木柵が変型している写真—4 は評価が最も低く、街路景観の阻害要素となっているものと推察される。

写真—5 ビルディングトータルデザイン (サッシド

ア材)、写真—8 ボックス形式 (スチール材)、写真—9 ボックス形式2連タイプ (スチール材) (コンクリート柵)、写真—2 網戸形式 (コンクリート塀一体型) の景観評価順位は5位~8位であることから、ごみステーションが周囲の建築物や塀類とトータルデザインされていても、可視型のごみステーション、つまり路上からごみが覗けるデザインのものには評価が低下する傾向を示すことが解る。

また、表—4 と表—5 の上位5位までのごみステーションの景観評価要因の分析結果 (H_ij) において、G; ごみの隠れ度が良い、L; カラスから保護するデザインが良い、B; ごみステーションが周辺景観と調和している、J; 住宅地域のイメージとマッチしている、A; ごみステーションのデザイン (大きさ・形・色) が良いに関する値が高いこと及びK; ごみを出しやすそうなデザインが良い、H: ごみを収集しやすそうなデザインが良い、E; 配置 (車道側) が良いに関する値が低いことなどから、心理実験の結果はごみステーションの利便性に比べて景観デザイン性を重要視して評価していることが解る。

最後に、心理実験の結果を総合的に考察すると、共同使用のごみステーションに比べて自宅管理 (マンション管理を含む) のごみステーションにおいて評価が高まる傾向があるので、将来はこの点からの検討が必要になるとと思われる。

7. 結論

本研究は、大都市の居住系地域におけるごみステーションを対象に計量心理学的手法を適用して景観評価を行ったものである。得られた結果を要約すると次のように示される。

- 1) 周囲の建築物や塀類とトータルデザインされたごみステーションで、不可視 (街路上からごみが見えないもの) ごみステーションの評価が高い。
- 2) 可視 (街路上からごみが覗ける) のごみステーションの評価では、ごみが覗けるというだけで評価が低くなる傾向がある。
- 3) そのため、ネット形式のごみステーションの評価が低い。ネットの色彩の如何に関わらず、ネット形式 (木柵単体) のごみステーションは特に街路景観の阻害要素となっている。
- 4) 利便性に比べて、デザイン性を重要視して評価する傾向がある。
- 5) 共同使用のごみステーションより、自宅管理 (マンション管理を含む) のごみステーションの評価が高い。

謝辞: 最後に、本研究の資料の収集及び討議に参加された観光研究ゼミナールの鈴木朝弥、園部晋也、齋藤

勇斗, 岡崎康平, 工藤有生, 佐々木健人, 東海林茉由, 谷口大機, 福島悠司の諸君, そして討議に参加された阿部拓未, 東原侑里, 村田拓海の諸君に謝意を表す。

7) 加藤晃・竹内伝史, 新・都市計画概論改訂2版, 共立出版, pp. 1~293, 2006

(2010. 9. 18 受理)

参考文献

- 1) 日本建築学会編, 生活景, pp. 1~286, 学芸出版会, 2009
- 2) 小山暁, 電線・電柱による錯綜感に関する研究, 土木学会第2回景観・デザイン研究発表会, 土木学会, 2006
- 3) 宮沢功, 街のサイン計画, pp. 1~182, 鹿島出版会, 1987
- 4) 土木学会編, 街路の景観設計, pp. 1~289, 技報堂出版, 1985
- 5) 日本技連官能検査委員会編, 官能検査ハンドブック, 文祥堂, pp. 471~476, 1987
- 6) レオン・ブリルアン, 佐藤博訳, 科学と情報理論, pp. 1~339, 1969

EVALUATION OF THE TOWNSCAPE DESIGN ON THE DUST STATIONS AT TOYOHIRA SAPPORO OF HOKKAIDO IN JAPAN

Akira ANDO, Hidekazu YOKOMAKURA and Yuya KUJI

We studied the evaluation of the townscape design on the dust stations at Toyohira Sapporo, the capital city of Hokkaido in Japan. Using the method of paired comparisons with reference to clarify the order of the evaluation of townscape design on the dust stations and using the index of information theory of C. Shannon with reference to clarify the important factors of townscape design on the dust stations.

In this paper, the study results of the order of the evaluation of townscape design on the dust stations and of the important factors of townscape design on the dust stations.

発地型観光と着地型観光の構造比較に関する一考察

芥川一則¹・渡邊彩ゆこ²

¹正会員 博士(情報科学) 福島工業高等専門学校教授 コミュニケーション情報学科
(〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30)

E-mail: takutagawa@fukushima-nct.ac.jp

²福島工業高等専門学校 コミュニケーション情報学科 (〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30)

本研究では、近年注目されている「着地型観光」と従来型の観光である「発地型観光」を、旅行業者、観光資源サービス提供者そして旅行者である消費者の3人のプレーヤーの行動から分析する。

この分析により、発地型観光の利潤の源泉は規模の経済であることを明らかにし、その利用による利潤の拡大が発地型観光の衰退を招いたことを明らかにする。また、着地型観光は収益性が低いといわれている。その原因が、観光の形態が違っているにもかかわらず発地型観光と同様に規模の経済によって、利潤を求めようとするに原因があることを明らかにする。そして、他の方法により利潤を生み出す手法について検討する。最後に、着地型観光に対する補助金の功罪について検討する。補助金の交付によって着地型観光が衰退するメカニズムを明らかにする。

Key Words: Tourism industry, Scale economy, Profit structure, Mass tourism, Local tourism

1. はじめに

近年、新しいタイプの観光として「着地型観光」が注目を集めている。従来型の観光を「発地型観光」とし、その対極にある観光という発想のようである。観光業界における着地型観光の認識は「目的地に所在する旅行業者が企画する旅行」のようにされている。

各地で着地型観光と銘打った企画が売り出されている。福島県では「着地型観光推進を通じた地域づくり事業」に取り組んでいる。そのプログラムには「着地型観光推進事業」として、実践形式の研修により、地域づくりのための観光を推進する担い手を育成することを目的としている。このような取り組みは各県で行われている。

しかし、着地型観光は「儲からない」といわれている。このため、「地域づくり事業」と位置づけられ、地域づくりの手段とし、利益をあまり顧みない方向へ進んでいる自治体も見受けられる。福島県も含め、補助金によって着地型観光に取り組んでいるが、その補助金の期間が終了するとその取り組みもおざなりにされる状況も予想される。補助金が無ければ継続的な運営が難しい費用構造であれば、ブーム的なもので終わってしまう。

本研究では、発地型観光と着地型観光の構造を比較するため、観光産業を3人のプレーヤーの行動から分析を試みる。まず、都会などに立地する①旅行業者である。このプレーヤーの役割は、旅行を企画し、広告を行い参加者を募り、同行して交通機関を使って観光地まで送迎する。企画によっては、同行

せず、旅行の手配までを行う。

次に目的地に立地する②観光資源サービス提供者である。このプレーヤーは旅行業者の企画に、観光資源のサービスを提供する。具体的には旅館やホテルそして、テーマパークなどである。これら2人のプレーヤーは合理的に行動して、各自の利潤が最大になるように行動すると仮定する。

最後にその企画旅行の購入者である③消費者である。このプレーヤーは、旅行業者が企画する旅行あるいは、観光資源サービス提供者のサービスから得られる効用の最大化を図ると仮定する。

次章から、発地型観光と着地型観光について①旅行業者、②観光資源サービス提供者そして③消費者の3者の行動から、着地型観光と発地型観光の構造の違いについて検討する。

2. 発地型観光

発地型観光についての明確な定義は存在しないようである。観光業界では、「出発地の旅行業者が企画する旅行」と一般的には認識されている。この定義語が着地型観光である。

発地型観光について、ある一つの企画旅行を仮定して分析を進める。発地型観光では、出発地である都会にある旅行業者が旅行を企画し、参加者を募集すると仮定する。企画の内容は、旅行業者の社員が行うものとする。この企画旅行には規模の経済が存在する。企画旅行の費用は固定費用と可変費用から構成される。固定費用はこの旅行の企画費用や広告

費用である。これは参加者の人数に依存せず、一定額が発生する。可変費用はその企画旅行における宿泊費や観光施設の入場料などである。これは参加人数に依存して増加する。このような費用構造であるため、損益分岐点が存在することとなる。損益分岐点は参加者が支払う旅行代金の合計額と旅行業者の総費用が一致する参加人数である。この損益分岐点は企画旅行における最小催行人員とも考えられる。

旅行業者と観光資源サービス提供者は、利潤最大化を目的としている。利潤は一般的に以下のように定義される。

$$\pi = Px - (C_F + C_V) \quad (1)$$

ここにおいて π は利潤、 P は価格、 x は数量、 C_F は固定費用、 C_V は可変費用を示す。

ここに損益分岐点は式(1)において $\pi = 0$ における数量、つまり参加人数となる。

以下では旅行業者、観光資源サービス提供者そして消費者の行動を記述する。

(1) 旅行業者

旅行業者の目的は利潤最大化である。式(1)から彼等の取り得る手段について検討する。ここにおいて式(1)の P は企画旅行の販売価格、 x は参加人数、 C_F は旅行業者の固定費用、 C_V は観光資源サービス提供者に支払う費用とする。

旅行業者が π の最大化を図る手段は次の3つが考えられる。

- ① P (販売価格)
- ② C_F (固定費用)
- ③ C_V (観光資源サービス提供者への支払)

利潤最大化条件は限界費用と限界収入を等しくすることである。この場合の限界収入は P であり、限界費用は $C_F + C_V$ が旅行者が1人増加したことにより、増える費用である。この状況は以下のように示すことができる。

$$P = \frac{\partial(C_F + C_V)}{\partial x} \quad (2)$$

式(2)において、 P は $C_F + C_V$ に依存していることに注意されたい。 C_F には広告費用が含まれているので、その商品の市場における応募人数に影響を与えることとなる。 C_V は、次に説明する観光資源サービス提供者との交渉によって決定されることとなる。

P を引き下げるとは、 x を増加させる効果を持ち、 C_F を多くすることは広告効果により市場が拡大され、 x を増加させることとなる。このため、旅行業者は C_F の増大と C_V の減少を図る行動を取ることが利潤の増大につながる行動となる。

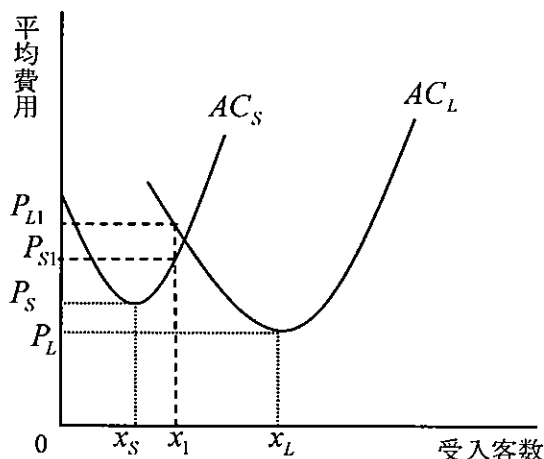


図1 規模の経済における平均費用

(2) 観光資源サービス提供者

観光資源サービス提供者の目的も利潤最大化である。彼等の行動の具体例として宿泊施設が前述の旅行業者から企画旅行で集められた参加者を斡旋された状況を検討する。

旅行業者は団体参加者を宿泊施設側に斡旋する。このとき価格は、旅行業者と宿泊施設の交渉によって決定される。その交渉の主な論点は価格となる。宿泊施設側は他の宿泊施設より交渉を有利にするために規模の経済を利用することとなる。規模の経済ではその規模が大きいほど一人当たりの費用である総平均費用は低くなる。この状況は、図1のように示めされる。

宿泊施設に規模 AC_L と規模 AC_S がある場合に、規模 AC_L の最も総平均費用が低い受入客数は x_L であり、規模 AC_S では x_S となる。受入客数が x_L である場合には、規模 AC_L が P_L の最も安い価格を提示できるので、旅行業者と有利な交渉を行うことができる。ところが受入客数が x_1 である場合には、 $P_{S1} < P_{L1}$ となるので規模 AC_S の方が旅行業者と有利な交渉を行うことができる。ここで規模 AC_L は、受注に目がくらみ価格 P_L を旅行業者に提示してしまう場合がある。この状況については、芥川の論文¹⁾を参照されたい。

一般には、規模の経済の大きい宿泊施設が、より低い価格を提示することが可能となる。ここで、宿泊施設側の利潤について検討する。この状況は以下のように示される。

$$\pi = x(P_T - AC) \quad (3)$$

ここにおいて P_T は旅行業者と交渉により決定された価格であるが、宿泊施設側は価格受容者として行動すると仮定する。 AC は宿泊施設側の宿泊者一人当たりの総平均費用を示す。 x は旅行業者が当該企画によって集めた旅行者数とする。

ここで前節で論じた C_V について議論する。ここ

において C_v は以下のように定義される。

$$C_v = xP_T \quad (4)$$

式(4)を式(2)に代入して計算すると以下のようになる。

$$P = P_T \quad (5)$$

このことは、旅行業者と交渉することによって決定された価格を販売価格にすることが観光資源サービス提供者にとって利潤最大化をもたらすことを意味している。

式(3)から観光資源サービス提供者である宿泊施設側が π の最大化を図る手段は以下が考えられる。

① AC (総平均費用)

彼等は旅行業者から提示される価格と受入人数から契約の有無を決定する。よって、 x も P_T も操作することはできない。AC は規模の経済により、より大規模な施設を作ることによって低下させることは可能である。このことは発地型観光の対象とされる観光資源の特徴に現れていると思われる。それは①大規模、②人工施設、③有名である。

①大規模は、規模の経済を十分に活用して、総平均費用を低下させ、利潤の増大を図る。②人工施設は、天候などの自然条件に左右させることなく、旅行者の受入を可能にする。そして③有名は、旅行業者が旅行者を募集するとき有効な広告手段である。

また、1960年代から始まるマス・ツーリズムといわれる観光の大衆化が、発地型観光の発展の背景にあると考えられる。これにより、大量の旅行者が生まれた。これらを受け入れる観光資源サービス提供者はその規模を拡大した。それによって総平均費用も低下したため利潤も増大した。1960年代から1990年代にかけては旅行者は増加の一途を辿っていたため、前述の規模の小さい施設の方が総平均費用が低くなる現象や旅行業者が提示する価格より総平均費用が低くなるような状況は少なかったと考えられる。

(3) 消費者

消費者の目的は効用最大化である。この場合の効用水準決定要素は、価格とそのサービスの品質と考えられる。よって、その状況は効用関数を用いて以下のように記述される。

$$U = U(P, Q) \quad (6)$$

ここにおいて U は効用水準、 P は企画旅行の販売価格、 Q は観光資源サービスの品質を示す。この効用関数は以下の性質を持つものとする。

$$\frac{\partial U}{\partial P} < 0 \quad \frac{\partial U}{\partial Q} > 0 \quad (7)$$

このことは企画旅行の販売価格が上昇すれば効用水準は低下し、企画旅行のサービス水準、つまり品質が上昇すれば効用水準は上昇することを示す。

消費者の企画旅行の購入の有無は、価格と品質によって決定されるとするのは、受け入れやすい考え

方である。消費者はある一定の効用水準を超えた企画旅行を購入すると考えられる。

1960年代から高度経済成長により所得が増加し、余暇を楽しむ余裕を持つようになり、マス・ツーリズムが始まった。また、所得の増加により旅行商品の価格が相対的に下落することとなる。そのことは旅行による効用水準を上昇させることになり、消費者の旅行商品の購入を増やし、需要の増大による市場規模の拡大が、旅行業者を大規模化したと考えられる。

日本政府観光局 (JNTO) の調査にれば国内宿泊者数は平成 16 年から減少傾向にあり、平成 18 年には 3 億人を割り込み、その後も減少が続いている。この背景には消費者が従来の旅行に飽きてしまったことがあげられる。これは観光資源サービス提供者が利潤を増加させるために、総平均費用を下げようと大規模化を図ることにより、観光地としての魅力つまり、旅行サービスの品質である Q が下落していったと考えられる。

もう一点は所得の増加により、生活水準の上昇もした。観光とは非日常を求めるものでもある。旅行サービスの品質である Q には、宿泊施設における食事も含まれる。食生活の水準が向上して、旅行に行かなくてもご馳走が食べられる状況にある。このことは相対的な Q の下落を意味する。

また、建設技術の向上は施設の建設費用を下落させ、似たような施設を全国各地に建設する結果となった。このことも相対的な Q の下落を誘発する結果となったと考えられる。

3. 着地型観光

前節では発地型観光について分析したが、同様の視点で着地型観光を考察する。着地型観光は、「目的地に所在する旅行業者が企画する旅行」と観光業界では認識されている。

2000年に国内宿泊者数約3億2500万人でピークを迎え、その後横ばい状況となり2004年から減少が始まった。2003年からは「観光まちづくりプログラム策定推進事業」が実施され、着地型観光の萌芽がみられた。観光産業は地方において、重要な産業である。発地型観光が低迷して、地方に旅行者が来なくなることは、地域経済の衰退を意味する。これは地域自体の衰退にもつながる。そこで各自治体が起死回生を期待して取り組んでいるのが着地型観光である。このため着地型観光による「地域づくり」を標榜する自治体もある。

本章でも着地型観光について、ある一つの企画旅行を仮定して分析を行う。着地型観光では、観光資源サービス提供者が旅行を企画し、参加者を募集する。発地型観光では、旅行業者のみが企画旅行を販売していたが、着地型旅行では観光資源サービス提供者と旅行業者の二つの販路が存在することになる。

一般の商品販売におけるメーカー直販と代理店販売という販売形式となる。企画の内容は、観光資源サービス提供者の社員が行うものとする。この企画旅行には規模の経済が存在する。企画旅行の費用は固定費用と可変費用から構成される。固定費用はこの旅行の企画費用や広告費用である。これは参加者の人数に依存せず、一定額が発生する。可変費用はその旅行における宿泊費や観光施設の入場料などである。これは参加人数に依存して増加する。このような費用構造であるため、この場合にも損益分岐点が存在することとなる。

(1) 観光資源サービス提供者

彼等の目的は、利潤最大化である。利潤は以下のように定義される。

$$\pi = P_K x_K - (C_{KF} + C_{KV}) \quad (8)$$

ここにおいて P_K は観光資源サービス提供者の販売価格、 x_K はこの企画旅行における参加人数、 C_{KF} は観光資源サービス提供者の固定費用、 C_{KV} は観光資源サービス提供者の可変費用である。

観光資源サービス提供者が π の最大化を図る手段は次の3つが考えられる。

- ① P_K (観光資源サービス提供者の販売価格)
- ② C_{KF} (観光資源サービス提供者の固定費用)
- ③ C_{KV} (観光資源サービス提供者の可変費用)

利潤最大化条件は限界費用と限界収入を等しくすることである。この場合の限界収入は P_K であり、限界費用は $C_{KF} + C_{KV}$ が旅行者が1人増加したことにより、増える費用である。この状況は以下のように示すことができる。

$$P_K = \frac{\partial(C_{KF} + C_{KV})}{\partial x} \quad (9)$$

式(9)において、 P_K は $C_{KF} + C_{KV}$ に依存していることに注意されたい。これは、発地型観光の旅行者と同様の状況となる。

発地型観光において、観光資源サービス提供者は旅行者から旅行者の斡旋を受けていたため、受入価格と受入人数を所与として、利潤の最大化を図ってきた。このため、大規模な施設を建設して、総平均費用を下げる行動を行ってきた。ところが着地型観光では価格設定と市場開拓を迫られることとなる。この価格設定では C_{KV} が、市場開拓では C_{KF} が大きな影響を与えることとなる。

観光資源サービス提供者の規模の経済の費用構造について検討する。図2において TR は総売上を、 I は利潤を示している。固定費用曲線が C_{KF1} のときの損益分岐点の受入客数は x_{KF1} となる。

着地型観光における観光資源サービス提供者として秘湯にある宿泊施設を考える。この施設では、発地型観光の宿泊施設のように大規模化を図ることで

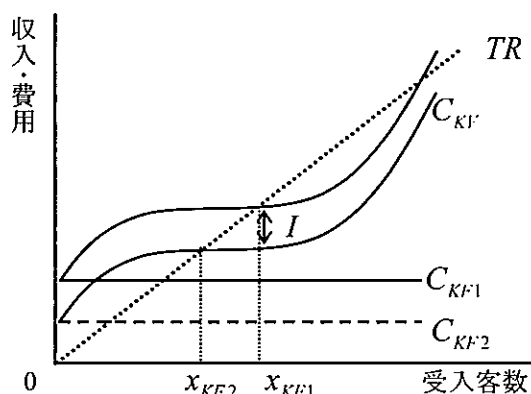


図2 規模の経済の費用構造

きない。つまり、総平均費用の低下によって利益を増加させる方法はとれない。前節で述べたように大規模化した宿泊施設では、旅行者の効用水準を満たすことはできない。秘湯にある宿泊施設ということで、他の宿泊施設に対して差別化を図れるため、その効用水準が高くなっている。ここで、大規模化を進めることは、秘湯という差別性を失うことになり、効用水準の低下を招くことになる。また、大規模にしたとしても、それをまかなう旅行者を集めることは難しいと考えられる。

観光資源サービス提供者の状況は①小規模、②自然資源、③無名が主な特徴と思われる。①小規模では、規模の経済を利用することはできない。そこで、大規模化すれば、効用水準を高める差別化を失うことになる。②自然資源はその地域にしかないため、差別化を高めることになる。しかし、天候などの自然状況に影響を受けるために、毎回同水準のサービスを提供することが難しい。③無名であるため、誘客は難しい。しかし、この無名性が効用水準を高める効果を持つ場合がある。これらの状況をまとめると客数が少なくその数の変動が大きいといえる。

この状況を費用構造の視点から検討したい。施設が小規模であり、かつそれを大規模化できない場合に利潤を生み出すには、図2に示されるように固定費用曲線を C_{KF1} から C_{KF2} に低下させることである。これにより損益分岐点における受入客数は x_{KF2} まで減少する。固定費用の低減により、受入客数が x_{KF1} である場合に I の利潤を得ることが可能となる。損益分岐点の受入客数が少なくできることは、その変動にも対応しやすくなる。

静岡県稲取温泉は、着地型観光の成功事例といわれている。この観光協会では、地元住民のボランティアを活用している。ここでのボランティアは無償ではなく、有償としていた。ボランティアに参加する住民は、定職を持ち、各自が余裕がある時に協力をしていた。また、観光協会側でも資金の提供ではなく、時間と手間の提供を求めている。このボランティアは観光協会が行う仕事のほとんどに参加している。観光ガイドのみならず観光パンフレットや季刊誌の発行までも行っている。固定費用の主なものは人件費である。観光協会の専任者1名であり、必

要な活動はその都度、ボランティアの協力でまかかってきた。観光パンフレットや季刊誌を専門業者に委託するより、ボランティアの協力で作成する方が格段に安くできる。これらの活動は、固定費用を低減させることになり、場合によっては可変費用の低減をもたらす場合もある。

着地型観光が「地域づくり」ともいわれているが、このような固定費用や可変費用を低減できる協力体制の確立できた地域が成功しているように思われる。この協力体制は観光産業に従事していない住民にも臨時的ではあるが、雇用の機会を提供する。地域活性化には経済的な恩恵が必要不可欠である。臨時的な雇用についても、稲取町の取り組みには含まれていると思われる。

以上のように地域住民による有償ボランティア活動は、 C_{KF} や C_{KV} を低減する効果があり、その体制を作ることが、観光資源サービス提供者の経営安定をもたらす方法と考えられる。

(2) 消費者

消費者の目的は効用最大化である。着地型観光では企画商品の品質は高いが、その商品がどこにあるのを探し出すことが難しくなっている。これは特徴の③無名によるものである。発地型観光では、旅行業者が企画・販売していたために、そこへ行けば商品を手にする事ができた。

着地型観光における消費者のこの状況は効用関数を用いて以下のように記述される。

$$U = U(P_K + P_S, Q_K) \quad (10)$$

ここにおいて、 P_K は観光資源サービス提供者の企画旅行の販売価格、 P_S は消費者がその商品を検索する費用、 Q_K は観光資源サービス提供者が企画した旅行の品質を示す。

着地型観光の企画旅行が、発地型観光の企画旅行より支持されるためには、その効用水準が発地型観光の企画旅行のそれより高い必要がある。そのためには以下の条件を満たすことが十分条件となる。

$$P_K + P_S < P \quad \text{かつ} \quad Q < Q_K \quad (11)$$

発地型観光では、旅行業者が企画旅行を造成して販売していたため、消費者は旅行業者に問い合わせれば、容易に企画旅行を探すことができた。ところが、着地型観光では、観光資源サービス提供が企画して直接消費者に販売する。観光資源サービス提供者は、販売ルートを確認していない。このため、消費者は各自の嗜好に合った企画旅行を見つけ出す作業をしなければならない。

この状況を出版業界にみる事ができる。都市にある大手出版会社は、全国の書店への書籍販売ルートを持っているため、そこで出版された書籍は、全国各地の書店に配本され店頭と並ぶこととなる。ところが、地方の出版社が出版しても販売ルートを持たないために、その出版社は地元の書店にその書籍を持ち込んで販売を依頼して、初めて書店と並ぶこ

ととなる。書籍は、インターネットで購入することが多くなっているため、地方の出版社もインターネットによる販売をしているが、アマゾンなどの大手書籍販売サイトに地方の出版社の書籍が掲載されることはない。これは前述の書籍販売ルートに加盟して出版の書籍しか掲載されないからである。

インターネットのポータルサイトが提供するサーチエンジンでは書籍名がわからない限り、地方の出版社の書籍を検索することはできない。大手書籍販売サイトに登録されてる書籍であれば、キーワードなどにより、新しい書籍の検索は可能となる。地方の出版社の書籍では、ある特定の分野の書籍を全て検索しようとする消費者でなければ、その書籍を見つけることすらできない。このため地方の出版社の書籍を購入しようとする場合には、検索費用、着地型観光における P_S がかなり高額となる。あるいは検索が煩雑なため、検索を途中で断念して購入されない場合が発生する。

着地型観光において、テレビや新聞などのマスメディアに取り上げられた場合に、集客が高まる場合がある。このような報道は広報あるいはパブリシティと呼ばれている。これは二つの状況の改善が行われている。まず、広告活動として消費者に企画旅行を知らしめることができる。特に、マスメディアは信頼性が高いので、消費者はその内容に疑義を持つことは少ない。もう一点は、マスメディアは企画旅行の内容を適切に紹介する。第三者の立場であるとともに、情報提供の専門家であるため、消費者に理解しやすいものとなっている。また、当然のことであるが、報道するに相応しい企画旅行を取りあげている。

消費者にとって、観光資源サービス提供者の企画旅行を選択する上で、重要となるのは検索費用と旅行内容の十分な周知である。旅行は体験しなければその内容は理解できない。そのため、体験前の情報が、判断の重要な基準となる。前述のマスメディアの取材では、適切な旅行内容の情報提供も集客に貢献していると思われる。

(3) 旅行業者

繰り返しになるが、着地型観光でも旅行業者の目的は利潤最大化である。この場合には、旅行業者は観光資源サービス提供者が造成した企画旅行を販売することで、利潤を得ることとなる。よって、旅行業者の行動は以下のように記述される。

$$\pi = nP x_K - (C_F + nP_K x_K) \quad (12)$$

ここで、 $x = n x_K$ 、 x は式(1)における参加人数を示し、 n は商品の種類を示している。

観光資源サービス提供者が造成する企画旅行は、発地型観光のそれと比較して、規模が小さい。このため、旅行業者は複数の企画旅行を販売しないと損益分岐点を満たす参加人数を確保できない。

発地型観光では、旅行業者の社員が企画旅行の造成を行っていたが、今回は観光資源サービス提供者

が造成した企画旅行の収集と販売が主な仕事となる。つまり、消費者のニーズに合う商品を探し出し、その内容の紹介を適切に行い、販売することが主な業務となる。

このような多品種少量生産の商品販売の成功事例に、ZOZOTOWN（ゾゾタウン）がある。日本最大級のファッション通販サイトとして1000ブランド以上を公式に取り扱い、そのアイテム数は20万点を超えるといわれている。通信販売においてファッションは難しい分野といわれていた。それは、試着しなければ得られない情報が多いことがあげられている。そこで、ZOZOTOWNでは、商品の写真を1点当たり10枚以上掲載するなどの情報量を多くしている。また、20万点を超えるアイテム数をそろえることで、サイト内での商品の比較を容易にしている。このZOZOTOWNの経営方針は、着地型観光の旅行会社の方向性を示していると思われる。

着地型観光の旅行会社は、企画商品を数多く集め、その商品の紹介を行い、消費者が商品比較を行って、個人の嗜好に合った商品選択の場の提供が重要になると考えられる。

以上、3人のプレーヤーの行動から着地型観光の分析を行ってきた。次章では行政機関が行う支援策である補助金政策について検討を行う。

4. 補助金政策

「観光圏整備法」が第169回通常国会で成立し、平成20年5月23日に公布された。この目的は「観光地が連携して、2泊3日以上滞りが可能な『観光圏』を形成することで、民間のソフト事業に対する補助制度や、各種法律の特例などにより、地域の自主的な取組を支援し、国際競争力の高い魅力ある観光地づくりを推進します。」（以上観光庁ホームページより抜粋）としている。この中にソフト事業に対する補助制度をうたっている。

また、鳩山政権下では雇用の確保策として「緊急雇用対策」を実施した。この政策は現在も踏襲されている。その主旨は重点分野における雇用の創出である。その分野の中には観光分野も含まれている。目的は「新たな雇用機会の創出、地域ニーズに応じた人材育成を推進する。」としている。

本節では、事業補助と緊急雇用対策が着地型観光に与える影響について検討する。

(1) 事業補助

事業補助は、その補助の受託者が行う事業に期間を限定して資金援助をするものである。観光圏整備法においては、ソフト事業と限定しているため、観光資源サービス提供者が催し物やイベントを行う場合を事例とする。補助金を受ける場合には、その対象となるものに制限がある。この場合には、人件費など固定費用に該当するものは、その対象外と仮定し

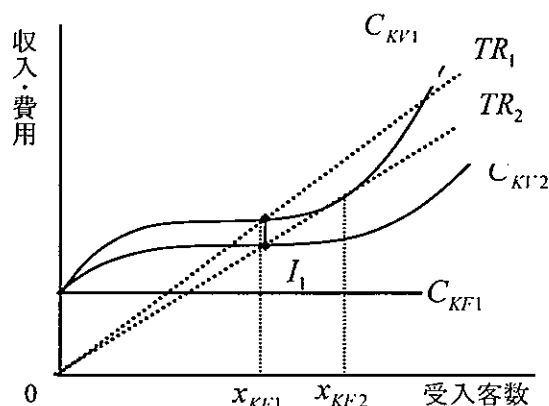


図3 規模の経済と事業補助

て論を進める。

図3に示されるように、事業補助を受ける前の可変費用曲線を C_{KV1} 、総収入曲線を TR_1 とする。このときの損益分岐点の受入客数は x_{KF1} となる。この状況において事業補助による補助金が投入されると可変費用曲線は C_{KV2} に変化し、受入客数が x_{KF1} においても I_1 の利潤を得ることになる。

ところが、補助を与える行政機関では、補助金の源泉が税金であることから、地域住民にもその恩恵を与えるために、販売価格の低減を要求されることがある。このことは総収入曲線を TR_2 に変化させることになる。総収入が減少して x_{KF1} は損益分岐点における受入客数に戻ることになる。

補助金を受けている期間は、その価格設定で、従来と同じ利潤を得ることが可能となるが、補助事業期間の終了後には、以前の可変費用曲線 C_{KV1} に戻る。ところがいったん低減した販売価格をもとの戻すことは営業上難しいことである。このため、価格を据え置くと総収入曲線は TR_2 のままであり、損益分岐点の受入客数は x_{KF2} となり、事業補助を受ける前より苦しい経営状態になる可能性がある。

事業補助を受けた場合には、販売価格の低減は行わず、補助金により生じる利潤は、広告活動や販売ルートの拡大に利用することが有効であると考えられる。

(2) 緊急雇用対策

緊急雇用対策は、その補助の受託者が行う事業に期間を限定して雇用費用を提供するものである。観光資源サービス提供者が、人件費など固定費用に該当するものへの補助金を受けた場合を検討する。

図4に示されるように、補助を受けると固定費用曲線 C_{KF1} は C_{KF2} に低減する。これによって損益分岐点における受入客数 x_{KF1} でも利潤 I_1 を得られるようになる。この効果は、地域住民の協力が得られ

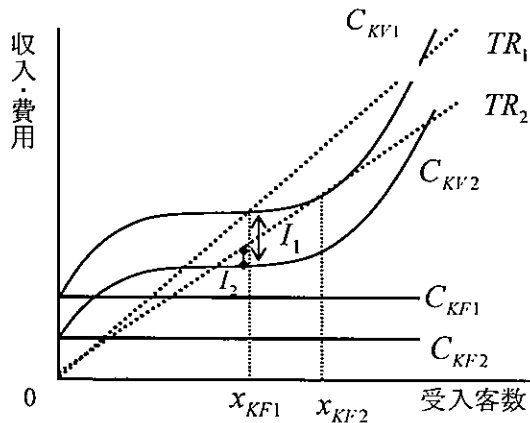


図4 規模の経済と緊急雇用対策

て固定費用が低減した状況と同じである。前述の事業補助の場合と同様に行政機関の圧力により、価格の低減も求められると、総収入曲線 TR_1 が TR_2 に変化して、利潤が I_2 まで減少することになる。また、補助期間が終了すると価格をもとに戻すことができず、価格をそのままにすると損益分岐点の受入客数が x_{KF2} となり、前述の事業補助と同様に経営を圧迫することになる。

(3) 行政機関の役割

補助金政策は、補助を受けている期間は、可変費用や固定費用の低減が可能となるため、補助を受ける観光資源サービス提供者は一時的に経営状況が改善する。しかし、行政機関による価格低減の圧力があると、その期間が終了するとより苦しい経営状態となる。行政機関は誰に対する補助であるかを明確に意識して交付する必要がある。補助金が税金であるため、地域住民への還元まで考慮すると、販売価格の低減という補助対象を逸脱した行為に至ってしまう。

着地型観光において、中心的役割を果たすのは観光資源サービス提供者である。彼等の活動を活発にするには固定費用の低減と販売ルートの確立と考えられる。固定費用の低減は、地域住民の時間と手間を提供する形の協力により可能となる。このことにはある意味、地域づくりである。この地域のづくりのために補助金が活用されるように考慮する必要がある。これは販売価格低減ではなく、多様な人材を観光資源サービス提供者に紹介することである。また、地域内にある観光資源を発掘して観光資源サービス提供者に紹介し、補助金を利用して企画旅行に仕上げることが役割であると考えられる。

5. 今後の課題

本研究では発地型観光と着地型観光について3人のプレーヤーとして①旅行者、②観光資源サービ

ス提供者そして③消費者を考え、その行動から着地型観光と発地型観光の構造の違いについて検討した。着地型観光では以下の3点が成功ポイントになることが示された。

1. 観光資源サービス提供者の固定費用の低減
2. 企画商品の差別化の維持
3. 企画旅行の販売ルートの確立

最後に3. 企画旅行の販売ルートの確立について公共図書館の図書収集の階層構造を参考に考えてみたい。公共図書館は、国立国会図書館を頂点として、都道府県立図書館、その下に市町村立図書館の階層構造となっている。国立国会図書館は日本国内の図書を収集している。福島県立図書館を例にとれば、郷土資料の収集に力を入れている。福島県立図書館では県内の市町村立図書館と連携をとり、各市町村で出版される書籍の悉皆収集に努めている。

着地型観光において、市町村単位よりも小さい範囲で、観光商品が造成されている。この観光商品に関する情報収集を各市町村の観光協会や自治体が担当する。その上部機関をバス事業者とする。都道府県には複数のバス事業者が存在している。そのバス事業者は観光部門を設置しているので、そこが旅行商品の販売と斡旋を行う。都道府県の観光行政部署は市町村の観光部署にこの体制の協力を要請する。このような都道府県単位の組織構造の確立が販売促進につながると考えられる。このシステムの確立を今後の課題としたい。

謝辞：本研究は第9回観光まちづくり学会研究発表会で発表を行った。安藤名誉会長をはじめ多くの会員の方々から有意義なコメントを頂いた。この場をお借りして感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 芥川一則・塚野加奈子：宿泊施設の稼働率と費用に関する一考察，観光まちづくり学会誌 Vol.7, pp.28-33, 2010年
- 2) 大澤 健：観光革命，観光革命
- 3) 岡本伸之 [編]：観光学入門，有斐閣アルマ
- 4) 嶋村紘樹：新版ミクロ経済学，成文堂
- 5) amazon ウェブサイト：
<http://www.amazon.co.jp/>
- 6) ZOZOTOWN ウェブサイト：<http://zozo.jp/>
- 7) 首相官邸ウェブサイト：
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kinkyukoyou/koyou/honbun.pdf>
- 8) 観光庁ウェブサイト：
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/seibi.html>
- 9) 社団法人日本旅行業界ウェブサイト：
<http://www.jata-net.or.jp/>
- 10) 国土交通省平成15年観光白書ウェブサイト：
<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/kankou-hakusyo/h15/images/03.pdf>

(2010.09.20受理)

A STUDY OF DIFFERENCE IN BETWEEN MASS TOURISM AND LOCAL TOURISM

Kazunori AKUTAGAWA and Sayuko WATANABE

This paper shows that scale economy make a profit in tourism industry too. Mass tourism is conventional. It has availed himself of scale economy, and makes a profit. But the more it use scale economy at tourism, the less it decreases the value of a resources.

Recently, local tourism is concentrated. It is called "Chakuchigata" tourism in Japan. It is interested by local governments and local citizen. We show that it does not avail himself of scale economy.

We analysis that subsidies give merit and demerit. It is up to behavior of local government.

平成 22 年度活動報告

第 9 回研究発表会報告

1. 期間及び場所

日時：平成 22 年 10 月 23 日（土）13：00～17：30

（10 月 24 日（日）は午前中、エクスカージョンを実施）

場所：八戸工業大学・メディアセンター

2. 参加人数

研究発表会：43 名、懇親会：34 名、宿泊：24 名（懇親会・宿泊場：八戸シーガルビューホテル）

3. 概要

観光研究の視点からまちづくりを考え、議論を交わす場となる第 9 回研究発表会が八戸工業大学を会場として実施されました。記念講演では、縄文保存協会の栗村知弘氏より、県内の縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す民間の取り組みが紹介されました。研究発表会では、9 組の発表があり、各発表に対して大変活発な議論がなされました。発表会終了後は学会総会が開催されました。懇親会は八戸シーガルビューホテルにて行われ、様々な機関や学生との交流の場となりました。24 日はエクスカージョンも実施され、八戸市の観光拠点を視察しました。

<プログラム>

1. 開会挨拶 13:00～13:05

観光まちづくり学会会長・道端忠孝

2. 記念講演 13:05～13:50 「是川遺跡・国宝 合掌土偶と観光へ世界遺産をめざして」

八戸縄文保存協会会長・栗村知弘氏

3. 研究発表会 14:00～17:00

座長：ノースアジア大学 井上寛

① 14:00～14:18 「宿泊税に係る租税法律主義の必要性」

東洋大学大学院 長谷川記史

② 14:18～14:36 「ベーシックインカムの実施における観光業への影響についての一考察」

アジア航測株式会社 阿部真也

③ 14:36～14:54 「着地型観光と発地型観光の構造比較に関する一考察」

福島工業高等専門学校 芥川一則

④ 14:54～15:12 「大都市の住居地域におけるごみ・ステーションの景観評価について」

北海商科大学 久慈裕也、横枕秀和

⑤ 15:12～15:30 「人間の脳機能の発達と西洋及び日本の都市の胎生的進化のアナロジーについて」

北海商科大学 安藤昭

座長：八戸工業大学 長谷川明

⑥ 15:40～15:58 「地方都市の観光行政～八戸の歴史的転回を例として～」

ノースアジア大学 渡部高明

⑦ 15:58～16:16 「成長するアジア・中国のエネルギーを街の活性化に取り組もう」

ノースアジア大学 向谷地博信

⑧ 16:16～16:34 「観光とまちづくりを考慮した地域公共交通の活性化」

八戸工業大学 武山泰

⑨ 16:34～16:52 「観光まちづくりのためのユニバーサル観光に関する研究」

八戸工業大学 畠山亮輔、安部信行

4. 総会 17:00～17:20

☆エクスカージョン日程：

種差海岸～八戸市水産科学館（マリエント）～八戸市博物館（国宝・合掌土偶見学）～八食センター

<記録写真>



写真1-栗村知弘氏による講演



写真2-研究発表会のコマ



写真3-種差海岸にて



写真4-八戸市水産科学館にて

発表要旨

1. 宿泊税に係る租税法律主義の必要性

東洋大学大学院 長谷川記史

要旨

今日、東京都においては、国際都市東京の魅力を高めるために、東京都宿泊税条例(以下、宿泊税条例とする)を施行し、宿泊税を徴収している。宿泊税についても、租税法律主義に基づき課税がされなければならないことがいえる。また、観光・余暇学の先行研究においても、租税法律主義に基づく課税がもとめられている。

問題提起：宿泊税は宿泊料金に応じて税率が決定することとなる(宿泊税条例第3条、第4条)。しかしながら、宿泊料金の算定について必ずしも明確であるとはいえず問題があるといえる。宿泊料金とは、東京都宿泊税条例第3条に規定する宿泊の対価として支払うべき金額であって規則で定めるものは、宿泊者がホテル等の宿泊に関して名称を問わず当該ホテル等に支払うべき額から次に掲げる額を除いた金額をいう(施行規則第1条)。次に掲げる金額とは、宿泊に伴い提供される飲食、遊興、施設(客室を除く。)の利用その他これらに類する利用行為の対価に相当する額(施行規則第1条1号)、消費税、地方消費税その他の税金に相当する額(施行規則第1条2号)、立替金その他宿泊の対価としての性格を有しないものに相当する額(施行規則第1条3号)、前3号に掲げるもののほか、知事がこれらに準ずるものと認めるものに相当する額(施行規則第1条4号)としている。この点、宿泊に伴い提供される飲食、遊興、施設(客室を除く。)の利用その他これらに類する利用行為の対価に相当する額について、食事等付のプランの場合に飲食の対価に相当する額が明確とならない場合があり、問題であるといえる。

考察：宿泊料金の算定については、その内訳が明確になれば、飲食等の対価に相当する額が算出することが可能となる。しかしながら、宿泊料金等の内訳については、経営戦略等の理由から宿泊者に対して内訳を明示しない施設も多いようであることがいわれている。このため、宿泊料金の内訳について明示されない場合には、飲食等の対価に相当する額を算出できるような法律の規定が必要であるといえる。すなわち、租税法律主義に基づき課税要件をより明確にすべきであるといえる。

結論：宿泊に伴い提供される飲食、遊興、施設(客室を除く。)の利用その他これらに類する利用行為の対価に相当する額については、必ずしも明確であるとはいえないため、明確とならない場合には、どのように算出するかを明確にする必要があるといえる。また、観光まちづくりにおいて、宿泊税を用いることで、「宿泊税の施行後、主な事業として、都内37施設の割引入場券付きウェルカムカード(7言語8種類)を作成し、提供したほか、観光案内所を3箇所を設置する」ことが可能となった。そのため、観光まちづくりを行うために、宿泊税を用いることがあげられるといえる。

2. ベーシックインカムの実施における観光業への影響についての一考察

アジア航測株式会社 阿部真也

要旨

近時、大不況による社会保障として「ベーシックインカム」についての議論が活発に交わされている。今回の発表は、仮にベーシックインカムが実施されるとするならば観光業にどのような影響が及ぶと考えられるか、またこの制度は観光業にとって望ましい制度であるかを考察しつつ観光とはなんであるかを考える一つの素材を提供するものである。

ベーシックインカムについての概要：BIENの定義によるとベーシックインカムとは「無条件で全員に対して個人単位で交付される所得であって、交付にあたっては資力調査や就労要件がない」としている。無条件性・個人単位ということが最大の特徴である。賛否は両論であり、様々な議論がかわせられている。

観光業の現状：季節・時期による変動が激しい。観光庁が休暇制度を大体的に検討・休暇取得についても様々な検討を加えているように、「余暇」に頼っている面が大きい。また、結局「ゆとり」の有無がそのまま観光業に影響してしまう。未だに、金持ちの贅沢という観念が一部にある。

観光業にとってベーシックインカムは望ましい制度か：ベーシックインカムはまさに今までの概念を大きく覆す、コペルニクスの回転であり、及ぼす影響についてもあくまでも「想像される」というものである。「実際のところやってみなければわからない」という部分が大きいことも確かである。しかし、私は以下の理由により観光業にとっては望ましい制度であると考えます。

- ①働き方の多様化により、従来の休日集中がある程度緩和される。
- ②雇用調整がしやすくなるため、季節性のある観光業などに望ましい制度である。
- ③純粋に旅行の需要喚起につながる。
- ④観光にとって掛け替えのない、地域資源を守ることに繋がる。

まとめ：繰り返すが、ベーシックインカムについては、様々な議論が交わされており、産業界から見てどうであるかという議論も交わされている。そのような中、今後の議論には具体的個別的産業からの視点も必要である。また、ベーシックインカムを素材にすることによって議論の対象となった産業について考察が深まることも期待される。今後もこのような議論を通じベーシックインカムについては、人間が働くことと、観光業についての考察が深まることを祈念する。

3. 着地型観光と発地型観光の構造比較に関する一考察

福島工業高等専門学校 芥川一則・渡邊彩ゆこ

要旨

近年、新しいタイプの観光として「着地型観光」が注目を集めている。従来型の観光を「発地型観光」とし、その対局ある観光という発想のようである。観光業界における着地型観光の定義は「目的地に所在する旅行業者が企画する旅行」のようにされている。各地で着地型観光と銘打った企画が売り出されている。福島県では「着地型観光推進を通じた地域づくり事業」に取り組んでいる。そのプログラムには「着地型観光推進事業」として、実践形式の研修により、地域づくりのための観光を推進する担い手を育成することを目的としている。このような取り組みは各県で行われている。しかし、着地型観光は「儲からない」といわれている。このため、「地域づくり事業」と位置づけられ、地域づくりの手段とし、利益をあまり顧みない方向へ進んでいる自治体も見受けられる。福島県も含め、補助金によって地域型観光に取り組んでいる。その補助金の期間が終了するとその取り組みもおおざなりにされる状況も予想される。補助金が無ければ継続的な運営が難しい費用構造であれば、ブーム的なもので終わってしまう。

本研究では、都会に立地する旅行業者、目的地に立地する観光資源サービス提供者、そして、その旅行の購入者である旅行者のそれぞれの行動に着目する。そして、発地型観光と着地型観光について旅行業者、旅行サービス提供者そして旅行者（消費者）の3者の行動から分析し、着地型観光と発地型観光の構造の違いについて検討した。

発地型観光についての明確な定義は存在しないようである。観光業界では、「出発地の旅行業者が企画する旅行」と一般的には認識されている。この対義語が着地型観光である。発地型観光は、出発地である都会にある旅行業者が旅行を企画し、参加者を募集する。企画の内容は、旅行業者の社員が行う。このため有名な観光地が選択されることとなる。また、募集人員の規模もある程度ものとなり、訪問施設自体も天候に左右されない人工のものとなりがちである。よってその特徴は①有名、②大規模、③人工施設と考えられる。

着地型観光は、全国的には有名でないが、知る人ぞ知る隠れ名所や伝統料理、生活文化体験などが組み込まれる。つまり、①無名、②小規模、③自然資源利用が主な特徴と思われる。

本研究では、発地型観光と着地型観光の構造の比較をおこなった。発地型観光は観光の本来の目的の一つである非日常体験が欠落する観光に変化させられ、その旅行商品から得られる効用水準が低下したため、消費者である旅行者は、その購入を止めてしまったと考えられる。着地型観光では従来の①観光業者が多品種少量生産の旅行企画を提供する方法の確立が必要であることを示した。②旅行サービス提供者はその価格設定を的確にすることと、サービス購入者である旅行者の確保が必要となることを示した。③旅行者は各人に合った旅行商品を見つけ出すことが、旅行から得られる効用を高めることになる。そして旅行サービス提供者の旅行商品と旅行者のニーズを合致させるシステムの構築が今後の課題と考えられる。

4. 大都市の住居地域におけるごみステーションの景観評価について

北海商科大学 久慈裕也・横枕秀和

要旨

日本人は「美に敏感しかし醜に鈍感」と言われて久しい。そのような中、電柱、広告・看板、自動販売機に関する修景デザインの研究は数多く存在するが、ごみステーションに関する研究は住民の生活環境の質の向上や来訪者のための観光まちづくりに寄与するところが大きいにもかかわらず少ない。

本研究は、札幌市豊平区におけるごみステーション群を取りあげ、ごみステーションの景観評価について計量心理学的手法を用いて尺度化し、デザイン上の課題を明らかにしようとするものである。分析の結果、①周囲の建築物や塀とトータルデザインされたもので、不可視（街路上からごみが見えない）ものは評価が高い。②可視（街路上からごみが見える）ものはごみが見えるというだけで評価が低くなる傾向がある。③そのため、ネット形式のもの評価が低く、特にネットの色彩の如何にかかわらず、ネット形式（木枠単体）のものは街路景観の阻害要素になっている。④機能性に比べてデザイン性を重視して評価する傾向がある。⑤協同使用・協同管理のものより自宅管理（マンション管理を含む）のもの評価が高いことが解った。

5. 人間の脳機能の発達と西洋及び日本の都市の胎生的進化のアナロジーについて

北海商科大学 安藤昭

要旨

近年、我々は多くの危機に直面している。地球生態系保全の危機、社会規範崩壊の危機、社会組織溶解の危機、そして個人の心の空洞化をもたらす高度情報社会の危機がこれである。そのため、人間とそのありようの総体を「都市デザイン」という一貫した視座の下で捉えたいという欲求が今ほど強く抱かれる時はない。そのためには、まず都市とは何か、そして誕生以来数千年に及ぶ都市進化の中で、現在の我々は何処に居て、何処へ行こうとしているのかを改めて考える必要があると思われる。

筆者は、これまで都市をひとつの有機体と見なし、その誕生より死に至るまで進化しつづけていく自己充足的存在としてとらえ、都市進化の潜在力と駆動力となってきた人間の脳に着目し、常に世界をリードしてきた西欧文明圏の記念碑的都市を例に、人間の脳機能と心的欲求と都市機能のアナロジーの検討から、「都市景観の構成」と「都市の胎生的進化モデル」を描き出し、これを基に、都市の本質と存在原理を検討してきた。

本研究は、既述の常に世界をリードしてきた西洋文明圏の都市と、東洋の唯一の先進国としてアジアをリ

活動報告

ードしてきた日本文明圏の都市の東西を代表する2つの文明圏の都市を対象に、人間の脳と心の発達と都市機能の胎生的進化のアナロジーの検討を通して、都市歴史に内在するフラクタルパターン(fractal pattern: フラクタルの初期状態)とフラクタル原理(fractal rule)を仮説立て、つまり都市の歴史はこのフラクタル原理に基づいて進化するとして、2大文明圏における「都市の胎生的進化モデル」をそれぞれ描出し比較検討しようとするものである。分析の結果、近代文明は今後100年から200年程度成長し続けた後渾沌とするが、24世紀・25世紀頃から東西文明圏の都市はほぼ同時に地球環境の時代(生物的環境の時代)に入ることが解った。

6. 地方都市の観光まちづくりー青森県八戸市を例にー

ノースアジア大学 渡部高明

要旨

青森県八戸市は昭和4年、海側の港の町村と城下町だった八戸町が合併により誕生した市である。すでに市制80周年を迎えている。市制誕生当時から産業都市(漁業と工業が中心)を目指し、高度経済成長期の昭和39年に新産業都市指定を受けて大きく発展してきた。

しかし、高度経済成長も終わった昭和50年代後半から、まちの足元を見つめた「街づくり」が始まった。それは、市民主導の「残したい建物運動」であった。その中で、もっとも市民が愛着をもち保存を望んだのは市内八日町にある「河内屋橋本合名会社事務所」である。大正13年に中心部を焼き尽くした八戸大火の後に、ロシア風洋風建築として登場した、いわば八戸の近代化の象徴ともいえるべき建物であった。昭和63年には青森県では初めて創設された「まちの景観功労賞」に選定されたものである。しかし、中心街通りの拡幅キャブシステム工事のため建物の保存の危機が訪れた。そこで、市民グループにより河内屋再生の会が立ち上がり、数年をかけて保存再生に成功した。現在は、国の登録文化財になっている。

次に、「八戸百景」の事業について述べる。景観というと、客観的・科学的な印象を与えるが、風景というと情緒的に分かりやすいし、人それぞれ好きな風景を持っている。また、江戸時代から和歌や俳句に風光を読み込む「金沢八景」があった。八戸も、明治期、八戸で最初の観光歴史地誌ともいえるべき渡辺村男の「八戸聞見録」に金沢八景に習った「八戸八景」が掲載されている。その後、時代の変遷の中で何度か「八戸八景」が考えられた。

高度経済成長を過ぎ、全国的にも景観やアメニティが重要視される中、「世田谷百景」(昭和59年)や市制百周年を記念した「盛岡百景」、「秋田市ふるさと名所百景」(平成元年)などが自治体により選定された。それらを参考に、市民グループ(八戸あしたの街委員会)により、平成3年に「八戸百景」を選定した。それを地元紙に1年間かけて百回連載した。そうすると、今度は八戸観光協会が「八戸百景」を本にして刊行してくれた。さらに、観光協会は絵葉書として、「新八戸八景」を選定し売り出した。このように、景観、アメニティ、風景、観光といったものはそこに暮らす人々が継続的に創り出すものであると思われる。

平成14年12月1日、八戸市民待望の東北新幹線が八戸にやってきた。それは、モクモクと煙をあげ日本を近代化に導いた黒船の来航のごとく、八戸にとって千載一遇の好機に思えた。それまでの、長い誘致運動、日本で最後の建設となった地場産業振興センター(ユートリーの愛称)など駅舎周辺の整備、新幹線八戸駅舎の建設などハード面の整備はもとより、八戸市や商工会が中心となり新幹線開業準備委員会による八戸観光のルートづくりが始まった。何せ、東京駅の新幹線ホームに1時間おきに「八戸」の文字が電光掲示で知らされるのだから。東京と八戸が3時間弱で結ばれる。開業記念誌「8・10(ハチ・イチマル)」が開業日に到着客に配られた。観光ガイドにない八戸を売るわけである。その東北新幹線も、もう少しで青森市まで進む。

7. 成長するアジア・中国のエネルギーを街の活性化に取り組もう

ノースアジア大学 向谷地博信

要旨

成長するアジア・中国のエネルギーを街の活性化をテーマに、JAL ホテルズのアジア、中国進出事例及び中国に関するデータの様々な内容についての紹介があり、海外進出やインバウンド客取込みのススメについて報告された。

日本の加工貿易立国モデルに外国資本の積極導入を加えた所謂「成功のビジネスモデル」を獲得した旧植民地国が急速に台頭し世界経済の中で存在感を強め、日本訪問客も加速度的に増大中である。日本としてはプライドと感情的反発を捨て、だが慎重に新規参入国の発展のエネルギーを内に取り込む他に道なし。世界開放経済系の怒涛の波へ我々自身も変貌し第二の本格的開国に備えるべし。観光産業として方法は2つ、打って出るか(海外進出)、呼び込むか(インバウンド取込み)。このうち街の活性化にはインバウンドの積極的な取込みが必須である。国は、外国人の日本訪問客数の目標を2016年に現在の800万人前後から約3倍の2000万人として多様な施策を打ち出している。その増加分の中心は中国である。幸いアジア高度成長国は地政学的に日本から近くヒトの移動・モノの輸送上欧米に比し有利。(日本はSIN, HKGよりは遠いが、米国、EUよりは近い)また思いのほか、民衆レベルでは反日感情はなく、寧ろ日本のハイテク現代文化と衣食住の生活文化に対する関心が強い。安全、安心、便利、快適、清潔でヒトに優しくハイテクが生活の隅々まで行き渡った日本はJapan is Cool!と世界の人々を席卷しつつある。素材は良い。自信を持つこと。日本人の持つ豊かな自然に育まれた感受性、美意識は世界をリードする大いなる資産。あとはそれをどう産業化するか。尚、中国等へ打って出る場合の方法は、投資による生産拠点移転、技術移転は中長期で産業の空洞化を招く

弊害大なのでブランドに Offshore Service を組み合わせた運営受託方式を奨めたい、という結論に至った。

8. 観光とまちづくりを考慮した地域公共交通の活性化

八戸工業大学 武山泰

要旨

近年、特に地方部において人口減少、高齢化、中心街の衰退といった問題が深刻化してきている。また、公共交通においても利用者の減少に歯止めがかからない状況にある。一方で、買い物難民の出現など、まちづくりや地域の公共交通をめぐる解決しなければならない課題は多い。観光においては公共交通が果たす役割は決して大きいとはいえないが、来街客にとって利用しやすい交通機関は、地域の住民にとっても利用しやすいものとなろう。本研究では、近年、八戸市を中心に取り組まれてきている地域公共交通の活性化に向けての取り組みを概観した。

八戸地域における公共交通の活性化施策

共通バスマップの作成：八戸地域においては八戸市交通部、南部バス、十和田観光電鉄の三事業者が路線バスを運行している。従来、ともすると乗客を奪い合うような傾向も見られ、回数券なども共通化されておらず、路線図も各社がそれぞれ製作していた。そこで、共通の路線図「バスマップはちのへ」を2009年度より作成している。また、バスマップの作成の過程で主要なバス路線について方面別の記号と番号を付すことが提案され、方向幕に掲示するようになった。

八戸駅線の共同運行：従来、新幹線の八戸駅と中心街を結ぶ路線バスは相当の本数が運行されてきたが、事業者間で客を奪い合うような時刻設定が行われたり、利用者にとって利用しやすいものとはなっていなかった。そこで、これまで運行してきた事業者間で調整して共同運行を行うこととした。時刻については八戸駅の出発時刻を10分間隔で運行することとした。結果、従来よりも総便数は減ったものの、利用者にはそれを感じさせずに、便利になったとの評価が得られている。

中心街ターミナルの再編：八戸市の中心街は、3車線ある国道が一方通行であることなどから、変則的なバス停の配置や呼称となっていたが、中心街ターミナルの総称と、それぞれの停留所に「のり場番号」を付すことで、分かりやすいものとした。

モビリティセンターの設置：中心街ターミナルの近くに「中心街ターミナルモビリティセンター」（略称：モビセン）を設置した。ここではバス利用についての案内を行う他、バス利用をサポートする「アテンダント」の育成や、モビリティマネジメントの手法を取り入れ、家庭や職場を直接訪問してのバス利用の促進のための活動（ミッションナリー活動）を継続していく予定である。

9. 観光まちづくりのためのユニバーサル観光に関する研究

八戸工業大学 畠山亮輔・安部信行

要旨

わが国では、団塊の世代の退職により、余暇の時間を旅行に使う人が増え、観光に対する取り組みや需要が今後さらに増えてくると考えられる。一方、観光地を含む日本各地のまちでは、高度経済成長やバブル期を経て観光まちづくりに注目し、新たな転換の時期を迎えている。観光とまちづくりが地域にもたらす影響や効果を考え、地域経済をさらに活発化させたい、魅力あるまちにしたいと思う地域が全国各地で増えている。これらの背景を含め、これからの社会で増えていく高齢者が観光に対してどのようなニーズを持っているのか調査を行い、把握し、そのニーズをあらゆる年齢層の観光客に反映させていくことを目的として研究を行った。また、観光まちづくりを行う上では、市民参画など様々な活動が必要となってくるため、ユニバーサル観光でのニーズを観光まちづくりにも生かすことをねらいとした。

ユニバーサル観光への様々な高齢者ニーズ、観光まちづくりへの改善点などが、調査を通して得られた。ハード面では、祭り時における結果であるが、高齢者や障がい者だけでなく、一般客にも歩きにくい環境やトイレ・ゴミ箱の設置など、日常のまちづくりにも関わる環境改善が求められる。ソフト面においてヒアリングの結果、受け入れる側となる住民からのホスピタリティの意識向上が求められる。また、ワークショップでは、直接ユニバーサル観光に関わる議論がされなかったが、まちづくりの点において、住民からの自主的な活動が促進され、その上で意識が高まると考えられる。観光白書より全年齢層で旅行回数は年々減少しているが、アンケート結果から今後増えてくると考えられる。また、高齢者ニーズとして、旅行・観光では、観光地の情報、宿泊施設などの分かりやすさや安心感のあるサービス提供の必要性が見られた。まちづくりでは、若年層の活動参加など世代間を超えた交流によって、まちづくりへの参加というニーズが見られた。観光まちづくりのためのユニバーサル観光は、高齢者のニーズを今後、全年齢層・観光まちづくりに反映させられるように、さらに調査が必要である。

**平成22年度 観光まちづくり学会
第1回役員会及び総会について**

平成22年10月23日(土)開催

役員会

役員会の出席者

安藤名誉会長 道端会長 長谷川副会長
米谷理事 芥川理事 菊池理事 宮井理事
佐々木事務局長 沖野事務局次長 他委任状
出席 (15人)

協議内容

- ・総会資料について事務局から説明を行い了承いただく。
- ・新たな理事として井上寛会員、安部信行会員の推薦があり、さらに井上会員には 学術論文審査委員に、安部会員には学会誌編集委員として総会に提案することとした。
- ・次回、平成23年度の研究発表会・総会の開催は宮城県とし、実行委員長は東北福祉大学の米谷先生に引き受けていただくことになった。

総会

総会は、54名の出席で審議成立し、道端会長から開催挨拶があり、議事について審議をいただき、結果は下記の通り。

- 1) 号議案・平成21年度事業報告および決算(案)について了承された。
- 2) 号議案・平成22年度事業計画および予算(案)について了承された。
- 3) 号議案・学会会則及び内規改正について承認された。
- 4) 号議案・前川勝朗様の顧問就任について承認された。
- 5) 号議案・役員人事の変更承認について
新理事に、ノースアジア大学 井上 寛先生(学術論文審査委員) 八戸工業大学 安部信行先生(学会誌編集委員)の2名が承認された。

会員情報

ノースアジア大学の石川竹一先生・向谷地博信先生・後藤忠志先生の3名が入会された。
会員数は正会員107名から110名となり合計で130名となった。現在学生会員は15名が名簿登録されており内訳は北海商科大学14名、東洋大学1名となっている。

**観光まちづくり学会誌 第9号
(平成24年2月発行予定) 原稿募集**

平成24年2月発行予定の「観光まちづくり学会誌第9号」に登載します、論文・報告・ノート・紀行文等の原稿を募集します。

本号、投稿規定を熟読いただき投稿整理票に必要事項を記入の上、投稿原稿と一緒に提出下さい。論文審査の方法は下記の通りです。

・論文審査の方法

第1次審査は、学術論文審査委員1人と匿名の査読者2名の3名によって行い、第2次審査は学術論文審査会で行います。

なお、「論文」の判定基準は以下の通りです。

「報告」についてもこの判定基準を準用します。

- 1) 内容：新規性、独創性、妥当性、信頼性、論旨の明確さ
- 2) 表現：表題、内容説明、文献引用、用語等の適切さ、図表表題の適切さ

原稿及び申込みの締め切りは平成23年10月30日消印有効です。多数の会員からの投稿をお待ちします。

観光まちづくり学会 仙台大会

第10回 研究発表会開催のご案内

観光まちづくり学会宮城大会(第10回研究発表会)を東北福祉大学・(財)東北開発研究所共催、で下記の日程で実施しますが、詳細は別途お知らせします。

- 1) 日時 平成23年10月8日(土)～9日(日)
- 2) 会場 東北福祉大学
- 3) 日程概要

10月8日：役員会開催：会員総会：記念講演：研究発表会：優秀発表賞表彰：懇親会

10月9日：午前中エクスカッション・石巻市または亘理町・仙台駅12時解散

- 4) 宿泊：ベストウエスタンホテル仙台

平成23年度学会費納入のおねがい

平成23年度学会費の納入を下記口座までお願いいたします。まだ、昨年度分会費未納の会員の方には2カ年分の入金をお願いいたします。

なお、学会費は正会員5,000円、学生会員(院博士課程)2,000円、法人会員20,000円となっております。

学会費郵便振替

口座番号：02260-2-59030

口座名称：観光まちづくり学会

観光まちづくり学会 投稿規定

1. 内容

観光まちづくりに関する学術・技術についての論文・報告とし、原則として未発表のものに限る。ただし、学術研究発表会で発表したものはこの限りではない。

2. 投稿資格

投稿は会員に限る。ただし共同執筆者に非会員を含むことができるが、筆頭執筆者は会員とする。

3. 原稿の種類と区分

論文

：学術的価値のあるもので、一遍ごとに論文としての体裁を整えているもの。
長い論文を分割し、連続形式として応募した論文は、独立した論文とはみなせない。

報告・ノート

：調査・計画・設計・実務などに関する資料紹介および報告。

紀行文

：著者が実際に訪問した町や地方の紹介、報告

4. 原稿の執筆要領

(1) 論文・報告の本文

投稿一遍につき刷上り 10 頁を基準とし、下記表中 A・B いずれによってもよい。A・B とも次の要約 (Abstract)・内容紹介・キーワード (5 つ以内) を必ず添付する。

(2) ノート・紀行文の本文

投稿一遍につき刷上り 6 頁とする。
報告・ノート・紀行文については要約 (Abstract) を必要としない。

原稿	本文	要 旨	Abstract
A	和文 10 頁	和文約 7 行	英文約 7 行
B	欧文 10 頁	英文約 7 行	和文約 7 行

(3) 論文のキーワードについては、英文表記も記述することとする。

(4) 本文の超過頁と費用負担

下記の費用は著者の負担とする。

- ア. 超過頁、ただし 4 頁を限界とする。
- イ. 論文・報告における腹刷り作成費。
- ウ. 図表等のカラー印刷に要した時の費用。

(5) 執筆要領

完全版下和文原稿作成例に記述。

5. 原稿提出

提出原稿はコピー 3 部とする。原稿表題の脇に「論文」、「報告」の区別を付す。著者は編集委員長会の意見に応じて修正した後、オリジナルを送付する。

6. 原稿受理

原稿が編集委員会に到着した日を受理日とし、当月の編集委員会開催日以降に審査を開始する。なお、審査の結果、原稿が再審査となった場合には改訂原稿受理日を併記する。

7. 審 査

編集委員会が査読委員 2 名の査読結果をもとに採否を決定する。なお、「論文」についての判定基準は以下の帳りである。「報告」についてもこの判定基準を準用する。

- (1) 内容：新規性、論旨の明確さ・妥当性、方法の独創性、結旺の独創性、資料の信頼性、調査方法の妥当性。
- (2) 表現：表題、内容説明、文献引用、用語等の適切さ、図表表題の適切さ。

8. 再審査

審査の結旺「再審査」の場合は、修正された原稿について改めて審査を行う。

観光まちづくり学会投稿論文の完全版下 和文原稿作成例

論文集編集委員会¹・事務局²・Touristic Community DESIGN³

¹正会員 工博 観光大学教授 まちづくり学部 (〒020-8551 岩手県盛岡市上田4丁目3-5)

E-mail:kankou@stdac.jp

²正会員 工修 観光株式会社 技術開発部 (〒020-0004 岩手県盛岡市上田六丁目13-5)

³Member of TCDU, Ph.D., TCDU Corp.

このファイルは観光まちづくり投稿論文の完全版下原稿(和文)を作成するために必要な、レイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています。と同時に、版下原稿そのものの体裁(A4)をとっているため、このファイルの中の文章や図表をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば、所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます。

このアブストラクトを含め、タイトル部分の幅は本文よりも左右1 cm ずつ狭くします。アブストラクトのフォントは明朝体 9 pt を用いてください。アブストラクトの長さは7行以内です。アブストラクトの後に1行空けて、キーワードを3~5語、Times-Italic 10ptのフォントで書いて下さい。

Key Words: times, italic, 10pt, 3-5 words, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line

1. タイトルページ

タイトルページは2つの部分で構成されます。

(a) タイトル部分：横1段組(題目、著者、所属、連絡先住所、E-mailアドレス、アブストラクト、キーワード)なお、E-mailアドレスは、必ず単独行としてください。

(b) 本文部分：横2段組

このほか、フッタ(ページ番号)が付きます。なおソフトウェアによっては、タイトル部分とその下の本文部分が別のファイルに分かれていることがあります。

(1) タイトル部分のレイアウトとフォント

全てのページのマージンはこのサンプルにありますように上辺19 mm、下辺24 mm、左右ともに20 mmに設定してください。タイトル部分の左右のマージンは、本文の左右のマージンよりもそれぞれ10 mm ずつ大きくとって下さい。すなわち、A4用紙の幅に対して左右それぞれ 30 mm ずつのマージンをとります。そして以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

タイトル：ゴシック体20pt フォント、センタリング
(約 15 mm のスペース)

著者名：明朝体 12 pt フォント、センタリング
(約 5 mm のスペース)

著者所属：明朝体 9 pt フォント、センタリング
(約 10 mm のスペース)

アブストラクト：明朝体 9 pt フォント、7行以内
E-mailアドレス：明朝体 9 pt フォント、センタリング
(約 5 mm のスペース)

キーワード：Times, italic, 10pt, 3~5語、2行以内
著者と所属とは肩付き数字で対応づけ、上記のように並べて下さい。'Key Words' という文字はボールドイタリック体にします。

(2) 本文部分のレイアウトとフォント

本文とキーワードの間に約 10 mm のスペースを空けてください。

本文は2段組で、左右のマージンは 20 mm ずつ、段と段との間のスペースは約 6 mm とします。

本文には明朝体 10 pt フォントを用いて下さい。

(3) フッタ

すべてのページの下辺中央にフッタ機能を使ってページが入りますが、ページ番号は暫定的に論文表紙を第1ページとしてつけてください。

2. 一般ページ

第2ページ以降はタイトルページの本文部分と同じレイアウトとフォントで本文を作成します。

(1) 脚注および注

脚注や注はできるだけ避けて下さい。本文中で説明するか、もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい。

3. 見出し（見出しが1行以上に長くなる時はこの例のようにインデントし折り返す）

(1) 見出しのレベル

見出しのレベルは章、節、項の3段階までとします。章の見出しはゴシック体とし、2.などの数字に続けて書きます。また、見出しの上下にスペースを空けます。このファイルのサンプルから分かるように、上を2行、下を1行程度空けて下さい。ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最上部に来るよう調整してください。

(2) 節の見出し

節の見出しもゴシック体で、(4)などの括弧付き数字を付けます。見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい。

a) 項の見出し

項の見出しは、括弧付きアルファベットを付け、上下には特にスペースを空けません。項より下位の見出しは用いないで下さい。

4. 数式および数学記号

数式や数学記号は次の式 (1a)

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1a)$$

$$F = \int \sin z dz \quad (1b)$$

のように本文と独立している場合でも、 $C_D, \alpha(z)$ のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します。数式や数学記号の品質が悪いと版下原稿として受け付けません。

数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰めにします。

5. 図表

(1) 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。また、図表はそれぞれのページの上部または下部に集めてレイアウトして下さい。図表の横幅は、「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1 や図-2 のように「1段の幅いっぱい」

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

資料番号	高さ h (m)	幅 w (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65

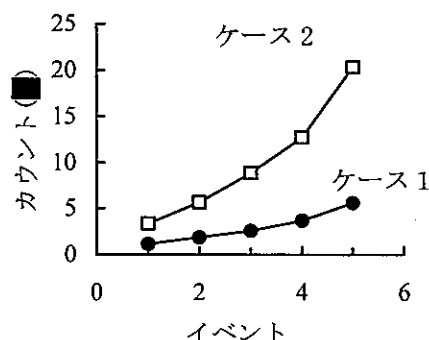


図-2 図のキャプションは図の下に置く

のいずれかとします。図表の幅を1段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい。図表と文章本体との間には1~2行程度の空白を空けて区別を明確にします。

(2) 図表中の文字およびキャプション

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意してください。特にキャプションの大きさ (9pt) より小さくならないようにして下さい。図表中の文字あるいは表題は本文と同じ言語を使うこととします。

長いキャプションは表-1 のようにインデントして折り返します。

6. 参考文献の引用とリスト

参考文献は出現順に番号を振り、その引用箇所でのように¹⁾上付き右括弧付き数字で指示します。参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し、脚注にはしないでください。

なお参考文献リストのあとに1行空けて、事務局から通知された原稿受理日を右詰めで書いてください。ただし、最初の投稿原稿を用意していただく時点では、ここに?マークを挿入してください。

7. 最終ページのレイアウトと英文要旨

最終ページには英文のタイトル、著者名および要旨を横1段組で書きます。このサンプルにあるよう

執筆要領

に、本文や参考文献リストまでの2段組部分の左右の柱の高さをほぼ同じにし、10 mm 程度の空白を入れて英文要旨を配置します。英文要旨部分の幅はタイトル部分と同じく本文よりも左右を10 mm ずつ狭くします。

謝辞：「謝辞」は「結論」の後に置いて下さい。見出しとコロンをゴシック体で書き、その直後から文章を書き出して下さい。

付録 「付録」の位置

「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の間に置くこと。

参考文献

1) Hill, R.: A self-consistent mechanics of composite materials,

J. Mech. Phys. Solids, Vol.13, pp. 213-222, 1965.

2) Blevins, R.D.: *Flow-Induced Vibration*, 2nd ed., Van Nostrand Reinhold, New York, 1990.

3) Karniadakis, G.E., Orszag, S.A. and Yakhot, V.: Renormalization group theory simulation of transitional and turbulent flow over a backward-facing step, *Large Eddy Simulation of Complex Engineering and Geophysical Flows*, Galperin, B. and Orszag, S.A. eds., Cambridge University Press, Cambridge, pp. 159-177, 1993.

4) ダン, Y.C.: 観光の力学/観光, 山田行介, 水出佳奈共訳, 風光館, 1970.

5) 中居伸明, 中嶋雄介: 完全版下原稿スタイルフォーマットの作成について, 観光まちづくり学会論文集, No.333/II-99, pp. 20-33, 1994.

(2002. 1. 1 受付)

PRINT SAMPLE FOR JAPANESE MANUSCRIPT FOR JOURNALS OF TCDIJ

Editorial COMMITTEE, Touristic Community DESIGN Institute of Japan

The present file has been made as a print sample of the camera-ready manuscripts for Journal of TCDIJ. Its text describes instructions to prepare the manuscripts: the layout; the font styles and sizes; and others. If you replace the text or the figures of the present file by your own ones, using CUT & PASTE procedures, you can easily make your own manuscripts.

This English ABSTRACT has narrower width than the main text by 10 mm from the left and the right margins of the main text, respectively. Font used here is Times-Roman 10pt. The length should be within 7 lines. It is preceded by the title and the authors; both are centered and the font size is 12pt.

観光まちづくり学会 論文・報告 投稿整理票

いずれかを○で囲んで下さい。 ・論文 ・報告 [*欄は編集委員会記入]

*受理年月日：__年__月__日 / 再受理年月日：__年__月__日

[著者の人数が多く、書ききれない場合は、ほか何名とし、別紙を添付して下さい。]

著者	(和文)
	(欧文)
所属	(和文)
	(欧文)
表題	(和文) _____
	(欧文) _____
本文__枚、図__枚、表__枚、写真__枚、内容紹介(200字)：有・無 英文要約(350語)：有・無、英文要約和訳：有・無 [本文が和文の場合] 和文要約(刷り上がり2頁)：有・無 [本文が欧文の場合]	

連絡先(勤務先の場合は所属まで、自宅の場合はその旨ご記入下さい。)

住所・氏名	〒_____ - _____		
電話		ファックス	
E-mailアドレス			

要旨 (内容紹介) 200字以内 (20字×10行)

観光まちづくり学会会則

第 1 章 名称と事務所

(名 称)

第 1 条 本会は観光まちづくり学会 (The Society of Tourism and Community Design) と称する。

(事 務 所)

第 2 条 本会の事務所はノースアジア大学道端研究室に置く。
2 本会の北海道支部事務所は北海商科大学商学部安藤研究室に置く。

第 2 章 目的と事業

(目 的)

第 3 条 本会は観光まちづくりに関する学術の進歩および普及を目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行なう。
(1) 会員の研究促進を目的とする研究発表会の開催
(2) 講演会および講習会の開催
(3) 調査研究および視察会の実施
(4) その他の本会の目的を達成するために必要な事業

第 3 章 組織と運営

(会 員)

第 5 条 本会の会員は、設立の趣旨に賛同し、観光まちづくりに関する学術の進歩および普及を目的に実施される各種事業に参加を希望する者をもって構成する。

会員は、個人会員および法人会員からなる正会員、学生会員、名誉会員とする。

学生会員は、学部生のほか、大学院博士前期課程の院生まで含めることとし、大学院博士後期課程の院生は個人会員とする。

名誉会員は、役員会において推薦し会員総会において承認する。

(会員の権利)

第 6 条 会員は本会の運営・企画する全ての事業に参加を希望することが出来、本会の編集出版物の配布を受けることができる。

(会費納入)

- 第 7 条 会員は次に定める年会費を納めるものとする。
- | | |
|-------|-----------|
| 個人会員は | 5,000 円 |
| 法人会員は | 20,000 円 |
| 院生会員は | 2,000 円 |
| 学生会員は | 会費を徴収しない。 |
| 名誉会員は | 会費を徴収しない。 |

(役員)

- 第 8 条 本会の事業を運営するために次の役員を置く。
- | | |
|-----------|--------|
| (1) 名誉会長 | 1 名 |
| (2) 会長 | 1 名 |
| (3) 副会長 | 1 名 |
| (4) 顧問 | 1 名 |
| (5) 事務局長 | 1 名 |
| (6) 事務局次長 | 1 名 |
| (7) 理事 | 25 名以内 |
- (名誉会長、会長、副会長、顧問、事務局長、事務局次長、特別顧問を含む)
- | | |
|----------|-----|
| (8) 特別顧問 | 1 名 |
| (9) 監事 | 若干名 |

(理事、監事)

- 第 9 条 理事および監事は正会員中から選出する。理事は本会の事業運営の執行にあたる。監事は本会の会計を監査する。監事は理事を兼ねることは出来ない。

(名誉会長、会長、副会長、事務局長、事務局次長)

- 第 10 条 名誉会長は会長経験者で本会の設立および発展に多大な貢献をした理事から選出し、会長、副会長、事務局長および事務局次長は理事の互選により選出する。
- 名誉会長は学会賞等の授与をする。
- 会長は本会を代表し、会務を総括する。
- 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときこれを代理する。
- 事務局長は、第 4 条に揚げられた会務を総括する。
- 事務局次長は、第 4 条に揚げられた会務を分担し執行する。

(役員名の報告および任期)

- 第 11 条 選出された役員名は会員総会において報告され、承認を受けなければならない。
- 役員任期は 2 年とする。原則として承認を得た会員総会終了時より次期改選年度の会員総会終了時までとする。但し重任

を妨げない。

(顧問)

- 第 12 条 本会に顧問を役員として置くことができる。顧問からは会費を徴収しないものとする。
顧問は役員会において推薦し、会員総会において承認する。

(会員総会の構成と開催方法)

- 第 13 条 正会員をもって会員総会を構成する。本会の組織と運営に関する最終決定は会員総会の決議による。
会員総会は通常総会と臨時総会とし、会長が主催する。
通常総会は毎年 1 回開催する。原則として研究発表会開催時に行なう。
臨時総会は理事の過半数または正会員の 3 分の 1 以上の連名による要求書の提示によって会長が召集する。

(会員総会の議決)

- 第 14 条 会員総会は会則の改正の場合を除き、正会員の 5 分の 1 以上の出席によって成立し、議事は出席者の過半数の同意をもって決定される。
出席は、委任状提出による出席を認めることとし、特に、法人会員にあっては代理出席も認めるものとする。

(会員総会の議事)

- 第 15 条 通常会員総会には次の事項を含ませなければならない。
- (1) 年次事業報告ならびに会務の審議
 - (2) 年次会計報告ならびに監査報告
 - (3) 研究発表会の開催に関する事項
 - (4) 役員改選年度においては役員の選出に関する事項

(議案提出の手続き)

- 第 16 条 正会員は、会員総会に議事を提出することができる。
議事の提案をしようとするものは、原則として、事前に提案議事内容および提案理由を役員会に提出しなければならない。

(役員会)

- 第 17 条 本会の運営全般について協議するため、本会に役員会を置く。
役員会は、本会則第 8 条に定める役員で構成する。
役員会は、会長が招集し、役員の半数以上の出席で成立するものとするが、役員に事故あるとき、または欠けたときは代理出席を認め、更に、委任状提出による出席も認めるものとする。
役員会は、毎年 2 回開催することとし、うち 1 回は研究発表会開催時

に行う。会長は、役員会の議長となる。会長に事故あるときは副会長が議長となる。

(役員会の任務)

第 18 条 役員会は第 3 条の目的に基づき、第 4 条に揚げた会務を分担し、遂行する。

(国際貢献部門)

第 19 条 本会則第 4 条 4 項に基づき、国際貢献部門を置く。
部門の中に会員の提案による部会を置くことができる。
部会の設置は総会の承認とする。

(支部)

第 20 条 本会則第 4 条 4 項に基づき、支部を置く。
支部の設置は総会の承認とする。

第 4 章 会 計

(経 費)

第 21 条 本会の経費は、会費、寄付金及び補助金等によって支弁する。

(会費納入)

第 22 条 会員は、当該年度の会費を 10 月末日までに納入するものとする。

(会計年度)

第 23 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日より始まり 3 月 31 日で終わる。

(会計担当)

第 24 条 事務局次長が会計担当の任にあたる。

(会則の変更)

第 25 条 本会の会則の変更は、正会員の 3 分の 1 以上が出席した会員総会において出席者の 3 分の 2 以上の同意によって成立するものとする。

出席は、委任状提出による出席を認めることとし、特に、法人会員にあっては代理出席も認めるものとする。

第 5 章 雑 則

(内 規)

第 26 条 本会の運営上必要がある場合には、会長が内規を定めることができる。

附 則

(施行期日)

- この会則は、平成13年12月8日から施行する。
- この会則は、平成15年10月4日から施行する。
- この会則は、平成18年10月21日から施行する。
- この会則は、平成19年09月29日から施行する。
- この会則は、平成20年11月23日から施行する。
- この会則は、平成21年04月18日から施行する。
- この会則は、平成21年10月17日から施行する。
- この会則は、平成22年10月23日から施行する。

(施行の特例)

本会会則第21条の規定にかかわらず、平成13年12月8日から平成14年3月31日までの期間は、平成14年度に含めることとする。

観光まちづくり学会学会賞表彰規程

平成 19 年 03 月 31 日制定

平成 22 年 10 月 17 日一部改正

第 1 条 観光まちづくり学会賞の表彰はこの規定による。

第 2 条 表彰は学術論文賞および優秀発表賞を授与して行う。

第 3 条 学術論文賞は、観光まちづくり学会誌に掲載された論文の中から観光まちづくりに関する学術の発展に大いに資すると認められる研究に授与する。

第 4 条 優秀発表賞は、観光まちづくり学会研究発表会において発表された研究の中から観光まちづくりに関する学術の発展に資すると期待される発表に授与する。

第 5 条 学会賞選考委員は、会長が委嘱する。

第 6 条 学術論文賞の選考は学会賞選考委員 3 名によって行う。優秀発表賞の選考は、座長の推薦を受けたものの中から、学会賞選考委員 3 名によって行う。

第 7 条 表彰は、通常総会において賞状・記念品を授与して行う。

第 8 条 この規定の変更決定は、役員会の議決によって行う。

観光まちづくり学会役員名簿

- | | | |
|-----|-------|----------------------------|
| (1) | 名誉会長 | 安藤 昭 (北海商科大学) |
| (2) | 会長 | 道端 忠孝 (ノースアジア大学) |
| (3) | 副会長 | 長谷川 明 (八戸工業大学) |
| (4) | 顧問 | 前川 勝朗 (山形大学名誉教授) |
| (5) | 事務局長 | 佐々木康勝 (元岩手県庁) |
| | 事務局次長 | 沖野 健悦 (北栄調査設計(株)) |
| (6) | 理事 | 米谷 光正 (東北福祉大学) |
| | | 赤谷 隆一 (岩手大学) |
| | | 芥川 一則 (福島工業高等専門学校) |
| | | 安部 信行 (八戸工業大学) |
| | | 井上 寛 (ノースアジア大学) |
| | | 菊池 義教 (元岩手県立福岡工業高校) |
| | | 木村 一裕 (秋田大学) |
| | | 佐々木栄洋 (株式会社栄組) |
| | | 佐々木貴弘 (岩手県立水沢工業高校) |
| | | 杉田 修一 (八戸工業大学名誉教授) |
| | | 外川 明広 (盛岡市役所) |
| | | 龍澤 正美 (学校法人龍沢学館) |
| | | 中村 正 (株式会社ネクサス) |
| | | 原田 房伸 (北海商科大学) |
| | | 南 正昭 (岩手大学) |
| | | 宮井 久男 (岩手県立大学宮古短期大学部) |
| | | 山添 勝 (山添計画工房) |
| (7) | 特別顧問 | 呂 杰 (るい じえ) (上海友普経貿発展有限公司) |
| (8) | 監事 | 後藤 俊明 (若築建設株式会社) |
| | | 渡邊 守章 (経済産業省東北経済産業局) |

観光まちづくり学会委員会

1. 学術論文審査委員会：委員長 安藤 昭
委 員 内藤 敏 船水 正雄 大泉 剛
及川 立一 梶田 敬仁 井上 寛
2. 学会誌編集委員会：委員長 原田 房信 (代理 菊池 義教)
副委員長 中村 正
委 員 安部 信行
3. 学術研究委員会：委員長 芥川 一則
委 員 米本 清 塚野 加奈子

事務局体制

事務局 長 佐々木康勝 事務局次長 沖野 健悦
事務局 員 佐々木栄洋 佐々木貴弘

本部事務所所在地

〒010-88515 秋田市下北手桜字守沢 46-1：
ノースアジア大学：道端研究室
TEL 018-836-1276 FAX 018-831-8586
E-mail: michihat@nau.ac.jp

北海道支部事務所所在地

〒062-8607 札幌市豊平区豊平 6 条 6 丁目 10 番：
北海商科大学安藤研究室
TEL 011-841-1161 FAX 011-824-0801
E-mail: ando@hokkai.ac.jp

事務局所在地：

〒020-0122: 岩手県盛岡市みたけ 4 丁目 4-20
(社) 岩手県土木技術センター内 観光まちづくり学会
TEL 019-643-8890 FAX 019-643-8892
事務局長直通 090-4635-5036 TEL・FAX 019-635-6946
E-mail: yasukatu@vmail.plala.or.jp

観光まちづくり学会ホームページ

<http://kmgakkai.blog79.fc2.com/>
<http://www.kankou-m.jp/>

法人会員名簿（平成23年2月18日現在）

50音順

法人名	郵便番号	住所	TEL
(株) 一測設計	021-0902	一関市萩荘字竹際33-5	0191-24-2222
(社) 岩手県土木技術センター	020-0122	盛岡市みたけ4-4-20	019-643-8890
(株) 共同地質コンパニオン	020-0812	盛岡市川目11-4-2	019-653-2050
専門学校盛岡カレッジオブビジネス	020-0025	盛岡市大沢川原3-1-18	019-651-5001
(株) 東開技術	023-0025	奥州市水沢区高網33	0197-24-1311

観光まちづくり学会 研究発表会開催校（開催地）

回	開催日	開催校（開催地）	実行委員長
1	平成14年 5月25日	アセンブラ・オクト (岩手県松尾村)	岩手大学 教授 安藤 昭
2	平成15年10月 4日	秋田経済法科大学 (秋田市)	秋田経済法科大学 教授 道端 忠孝
3	平成16年10月 9日	東北福祉大学 (仙台市)	東北福祉大学 教授 米谷 光正
4	平成17年10月15日	八戸工業大学 (八戸市)	八戸工業大学 教授 長谷川 明
5	平成18年10月21日	山形大学 (鶴岡市)	山形大学 教授 前川 勝朗
6	平成19年 9月19日	福島高等工業専門学校 (いわき市)	福島高等工業専門学校 准教授 芥川 一則
7	平成20年11月23日	岩手大学 (奥州市)	岩手大学 准教授 南 正昭
8	平成21年10月17日	ノースアジア大学 (秋田県八峰町)	ノースアジア大学 教授 道端 忠孝
9	平成22年10月23日	八戸工業大学 (八戸市)	八戸工業大学 教授 長谷川 明
10	開催予定 平成23年10月 8日	東北福祉大学 (仙台市)	東北福祉大学 教授 米谷 光正

編 集 後 記

日本政府は、「観光立国」を目指し、訪日外国人旅行者数の達成目標を2010年1000万人としていたが、実人数は861.2万人に留まった。しかし、安心・安全を求めて来る中国人、スキーを楽しみにくるオーストラリア人、高度な医療技術による検診や治療を受けながら保養地で過ごすリッチな外国人も大幅に増えていると聞く。

本学会も、観光目的に対応した、質の高い観光まちづくりを、テーマの一つに加えては、如何でしょうか。

学会誌編集委員長代理 菊池 義教

観光まちづくり学会誌

平成23年2月18日

観光まちづくり学会誌編集委員会

委員長：原田 房信

委員長代理：菊池 義教

副委員長：中村 正

編集委員：安部 信行

発行所：観光まちづくり学会

〒020-0122：岩手県盛岡市みたけ4丁目4-20

(社)岩手県土木技術センター内 観光まちづくり学会

TEL 019-643-8890 FAX 019-643-8892

印刷所：(有)博光出版 盛岡市みたけ5-8-43 TEL019-641-0671
